

WORKING PAPER No. 46

合併自治体の職員意識に見る市町村合併の検証(その3, 完)  
—兵庫県X市の職員アンケート調査、クロス分析・回帰分析を用いて—

長峯 純一

関西学院大学総合政策学部教授

湯之上 英雄

千葉商科大学サービス創造学部専任講師

吉見 安弘

関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期課程修了生

June 2010

# 合併自治体の職員意識に見る市町村合併の検証（その3，完）

—兵庫県 X 市の職員アンケート調査、クロス分析・回帰分析を用いて—<sup>1</sup>

長峯 純一<sup>2</sup>  
湯之上 英雄<sup>3</sup>  
吉見 安弘<sup>4</sup>

## 0. はじめに

本稿における調査・研究は、平成の合併をいくつかの異なる角度・アプローチから検証することを意図した研究の一環である。ここでは合併した自治体職員へのアンケート調査を通じて、合併自治体が抱えている課題、合併のメリット・デメリット等を明らかにすることを試みている。本調査の対象は、兵庫県内中山間地域にある6町による合併自治体 X の全職員である。すでに本稿（その1）において、この自治体の特徴、アンケート調査の内容、そしてアンケート調査の単純集計結果を整理している。そして、本稿（その2）においては、単純集計したアンケート調査の質問に関してクロス集計を行い、職員の質問に対する回答に何らかの傾向や相関が見出せるかどうかを検討した。本稿（その3）では、さらに別の角度から回答に関するクロス集計分析を行い、また一部の回答について、職員個人の属性（過去の職務歴や旧役場等）との関係を回帰分析によって検討する。予定として、アンケート調査結果の整理・分析を、本稿（その3）をもって一応の完了としたい。

---

<sup>1</sup> 本稿は、長峯・湯之上が受けている科学研究費補助金（平成20～22年度）、課題名「市町村合併が自治体財政および公的資源配分に与えた影響に関する分析」の一環として実施した調査をまとめたものである。本稿（その3）は、本稿（その1）および（その2）の続編である。また、調査内容および調査結果に関する責任はすべて著者にあるが、調査の実施に際して、X市に多大な協力をいただいたことについては、ここに感謝を述べておきたい。

<sup>2</sup> 関西学院大学総合政策学部教授

<sup>3</sup> 千葉商科大学サービス創造学部専任講師

<sup>4</sup> X市市民、元関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期課程

## 1. Q2【合併後の評価】の個人属性に対する回帰分析

本稿（その2）では、Q2【合併後の評価】への回答（とてもよかった／まあまあよかった／どちらとも言えない／あまりよくなかった／とても悪かった）を、3つのグループ、すなわち合併に「肯定的」「どちらでもない」「否定的」に分類し、他の質問とのクロス集計による検討を行った。その分析から、質問への回答が個人的な属性（性別、在職年数、過去の職務経験の履歴、合併前の役場）と一部で相関関係を持つ可能性が見出された。

そこで本稿では、同様の分析を、回帰分析（順序プロビット分析と順序ロジット分析）を用いて行ってみることにしたい。Q2への回答に、{とてもよかった=+2、まあまあよかった=+1、どちらとも言えない=0、あまりよくなかった=-1、とても悪かった=-2}という点数を与え、これを被説明変数として回帰分析を行う手法である。回帰式の形で書けば以下のようなになる<sup>5</sup>。

$$\begin{aligned} & \text{合併への評価 } \{+2, +1, 0, -1, -2\} \\ & = f(\text{性別、在職年数、各職務ダミー、合併前の役場}) \end{aligned}$$

各職務ダミーは、過去にその職務に就いたことがあるかどうかを回答してもらい、その個人が「職務経験有り」と回答した職務すべてに+1を与えた変数である。また、個人属性に関する変数以外に、Q1【合併前の4年前の評価】、Q18【現在のあなたの職務に対する充実感】、Q19【現在の職務能力】に対する回答も説明変数に加えている。Q18の回答では、職務に対する充実感が{かなり高まっている=+2、少し高まっている=+1、変わっていない=0、やや下がっている=-1、かなり下がっている=-2}という点数を与えている。

被説明変数は Q2 への回答	Ordered Probit 分析			
q1(4年前の評価)	0.291*** (6.461)	0.283*** (6.327)		
gender(性別)	-0.0669 (-0.514)	-0.0498 (-0.384)	-0.144 (-1.127)	-0.203 (-1.604)
year(在職年数)	-0.113*** (-3.679)	-0.113*** (-3.706)	-0.103*** (-3.405)	-0.105*** (-3.521)

<sup>5</sup> 順序プロビット分析の定式化は以下の通りである。

$$\begin{aligned} y_i^* &= \beta_0 + \beta_1 x_{i1} + \dots + \beta_k x_{ik} + \varepsilon_i \\ y_i &= -2, \quad \text{if } y_i^* \leq \alpha_1 \\ y_i &= -1, \quad \text{if } \alpha_1 < y_i^* \leq \alpha_2 \\ &\vdots \\ y_i &= 2, \quad \text{if } \alpha_4 < y_i^* \end{aligned}$$

ここで、 $y_i^*$  は観察されない被説明変数、 $y_i$  は職員から得られた回答{とても悪かった=-2、よくなかった=-1、どちらとも言えない=0、まあまあよかった=1、とてもよかった=2}といった変数である。説明変数  $x_{ij}$  ,  $j=1, \dots, k$  は、職員  $i$  の個人的な属性等を示す変数である。また、確率変数  $\varepsilon_i$  は独立な標準正規分布に従うと仮定する。ここでは、順序プロビット分析の特定化に関して説明を行っているが、本稿では補足的に順序ロジット分析も行っており、その場合の  $\varepsilon_i$  はロジスティック分布に従う確率変数となる。

exp1(企画・総務経験ダミー)	0.0653 (0.591)	0.0717 (0.650)	0.131 (1.196)	0.120 (1.109)
exp2(財務・税務経験ダミー)	0.229** (1.979)	0.283** (2.557)	0.331*** (3.023)	0.330*** (3.034)
exp3(農林経験ダミー)	0.117 (0.973)	0.111 (0.925)	0.0795 (0.667)	0.0677 (0.573)
exp4(教育経験ダミー)	0.0475 (0.453)	0.0614 (0.588)	0.0851 (0.820)	0.109 (1.057)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	-0.264** (-2.166)	-0.225* (-1.883)	-0.245** (-2.067)	-0.207* (-1.751)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	0.0807 (0.729)	0.0867 (0.784)	0.0653 (0.594)	0.110 (1.004)
exp7(健康・医療経験ダミー)	0.291** (2.467)	0.292** (2.471)	0.283** (2.413)	0.250** (2.151)
exp8(産業・経済経験ダミー)	0.0330 (0.258)	0.0437 (0.342)	0.0639 (0.503)	0.0806 (0.639)
exp9(土木・建設経験ダミー)	-0.125 (-1.030)	-0.105 (-0.874)	-0.112 (-0.935)	-0.112 (-0.940)
exp10(消防経験ダミー)	-0.360* (-1.830)	-0.155 (-1.056)	-0.166 (-1.133)	-0.191 (-1.321)
exp11(水道経験ダミー)	-0.289** (-2.208)	-0.285** (-2.178)	-0.312** (-2.401)	-0.333*** (-2.586)
exp12(行政・議会議事務経験ダミー)	0.232 (1.348)	0.235 (1.368)	0.204 (1.194)	0.150 (0.885)
exp2_10(財政・税務×消防経験ダミー)	0.463 (1.570)			
lpos_aogaki(前職が地域 A)	-0.117 (-0.640)	-0.0962 (-0.530)	-0.0295 (-0.164)	-0.0378 (-0.211)
lpos_sannan(前職が地域 B)	-0.404** (-2.338)	-0.390** (-2.261)	-0.447*** (-2.610)	-0.493*** (-2.897)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	0.167 (0.935)	0.163 (0.911)	0.183 (1.031)	0.205 (1.159)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.0844 (0.524)	0.0939 (0.585)	0.0558 (0.349)	0.00668 (0.0422)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	0.339* (1.913)	0.361** (2.041)	0.430** (2.453)	0.300* (1.739)
lpos_etc(前職が他自治体)	-0.0209 (-0.102)	-0.0802 (-0.398)	-0.0763 (-0.380)	-0.136 (-0.688)
jujitu_d(合併後に充実感向上ダミー)	0.479*** (4.353)	0.481*** (4.376)	0.524*** (4.804)	
skillup_d(合併後で能力 UP ダミー)	0.279*** (2.578)	0.275** (2.545)	0.315*** (2.935)	
Cut Point1	-1.787*** (-8.270)	-1.728*** (-8.128)	-1.644*** (-7.810)	-1.975*** (-9.968)
Cut Point2	-0.610*** (-3.040)	-0.556*** (-2.814)	-0.506*** (-2.582)	-0.896*** (-4.932)
Cut Point3	0.561*** (2.780)	0.612*** (3.073)	0.605*** (3.059)	0.149 (0.830)
Cut Point4	1.924*** (8.779)	1.973*** (9.096)	1.892*** (8.844)	1.378*** (7.129)
Pseudo R-squared	0.119	0.117	0.088	0.054
Observations	500	500	500	500

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

被説明変数は Q2 への回答	Ordered Logit 分析			
q1(4年前の評価)	0.524*** (6.510)	0.515*** (6.440)		
gender(性別)	-0.103 (-0.458)	-0.0833 (-0.373)	-0.226 (-1.023)	-0.310 (-1.432)
year(在職年数)	-0.192*** (-3.617)	-0.194*** (-3.654)	-0.180*** (-3.422)	-0.180*** (-3.437)
exp1(企画・総務経験ダミー)	0.0955 (0.500)	0.101 (0.526)	0.210 (1.104)	0.213 (1.123)
exp2(財務・税務経験ダミー)	0.382* (1.911)	0.458** (2.392)	0.553*** (2.914)	0.551*** (2.928)
exp3(農林経験ダミー)	0.209 (1.002)	0.199 (0.957)	0.175 (0.840)	0.179 (0.870)
exp4(教育経験ダミー)	0.0858 (0.471)	0.109 (0.600)	0.147 (0.821)	0.184 (1.030)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	-0.515*** (-2.362)	-0.455*** (-2.140)	-0.454*** (-2.160)	-0.386* (-1.890)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	0.108 (0.560)	0.116 (0.603)	0.0962 (0.500)	0.172 (0.897)
exp7(健康・医療経験ダミー)	0.512** (2.475)	0.513** (2.482)	0.497** (2.406)	0.446** (2.183)
exp8(産業・経済経験ダミー)	0.0988 (0.437)	0.112 (0.497)	0.121 (0.538)	0.178 (0.794)
exp9(土木・建設経験ダミー)	-0.253 (-1.185)	-0.222 (-1.048)	-0.226 (-1.067)	-0.223 (-1.066)
exp10(消防経験ダミー)	0.607* (-1.774)	-0.319 (-1.233)	-0.271 (-1.067)	-0.303 (-1.207)
exp11(水道経験ダミー)	-0.501*** (-2.219)	-0.498*** (-2.206)	-0.516*** (-2.287)	-0.577*** (-2.571)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	0.399 (1.286)	0.407 (1.317)	0.311 (1.030)	0.183 (0.613)
exp2_10(財政・税務 X 消防経験ダミー)	0.673 (1.287)			
lpos_aogaki(前職が地域 A)	-0.257 (-0.793)	-0.222 (-0.687)	-0.101 (-0.315)	-0.0615 (-0.194)
lpos_sannan(前職が地域 B)	0.675*** (-2.214)	0.649*** (-2.137)	0.778*** (-2.574)	0.862*** (-2.886)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	0.230 (0.749)	0.230 (0.749)	0.261 (0.854)	0.293 (0.971)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.142 (0.512)	0.163 (0.586)	0.0854 (0.311)	-0.000836 (-0.00309)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	0.568* (1.833)	0.592* (1.919)	0.708** (2.310)	0.528* (1.746)
lpos_etc(前職が他自治体)	0.00771 (0.0216)	-0.0759 (-0.216)	-0.0808 (-0.233)	-0.189 (-0.558)
jujitu_d(合併後に充実感向上ダミー)	0.889*** (4.612)	0.887*** (4.607)	0.941*** (4.949)	
skillup_d(合併後に能力 UP ダミー)	0.463** (2.451)	0.457** (2.422)	0.518*** (2.778)	
Cut Point1	-3.124*** (-8.054)	-3.047*** (-7.969)	-2.864*** (-7.618)	-3.408*** (-9.597)

Cut Point2	-1.039*** (-2.983)	-0.967*** (-2.820)	-0.854** (-2.531)	-1.478*** (-4.736)
Cut Point3	0.938*** (2.682)	1.006*** (2.915)	0.994*** (2.924)	0.243 (0.793)
Cut Point4	3.406*** (8.575)	3.474*** (8.831)	3.329*** (8.610)	2.462*** (7.058)
Pseudo R-squared	0.118	0.116	0.085	0.051
Observations	500	500	500	500

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

順序プロビット分析と順序ロジット分析の結果を続けて掲載したが、有意に表れた説明変数という点では、両者まったく同じ結果であった。その結果も前回の分析（本稿その2）から予測された関係と概ね整合的であり、ここではその統計的な有意さを確認することとなった。

推定結果から見出せた点を、以下に整理しよう。

- (1) 「4年前の合併への見方」と「合併後の評価」とは、ある程度の相関関係を持っていた。
- (2) 在職年数の変数はマイナスで有意であり、在職年数が長くなるほど、つまり年齢が上がるほど、合併への評価は下がるという関係があった。
- (3) 「税務・財務」「健康・医療」関連の職務経験者は、合併への評価が高かった。
- (4) 「環境・衛生」「水道」関連の職務経験者は、合併への評価が低かった。
- (5) 合併以前、6つの町のどの役場で務めていたかについても、一つの自治体 E は合併への評価が有意に高く、一つの自治体 B は評価が有意に低いものであった<sup>6</sup>。
- (6) ついでに合併後の仕事の充実感、あるいは能力が向上したかどうかの回答を点数化し、説明変数に考慮したところ、いずれもプラスで有意であった。

(6) の合併後の仕事の充実感、能力の向上については、個人属性とは異なる主観的な変数（回答）であるが、合併後の仕事が充実していると感じている人、合併後の職務能力が向上したと感じている人ほど、合併への評価が高いという結果であった。ただしこの結果から、仕事に充実感を覚えている人が合併も肯定的に捉えているのか、合併に肯定的であるからこそ、仕事に積極的に取り組むことができているのか、あるいはその両方の因果関係が作用しているのかまでは、読み取ることは出来ない。いずれの因果関係もありうるということをここでは指摘しておきたい。

## 2. Q8【各種行政サービス8分野への評価】の個人属性に対する回帰分析

Q8では、行政サービスを8つの分野に分けて、それぞれについて合併後にサービスが向上したかどうかを尋ねた。この回答について、{かなり向上した=+2、少し向上した=+1、変わらない=0、少し低下=-1、かなり低下=-2}という点数を与え、順序プロビット分析を用いて、個人属性に対する回帰分析を行ってみた（ただし、「分からない」という回答はサンプルから除外）。回帰式で表せば、以下のようになる<sup>7</sup>。

<sup>6</sup> 前役場ダミーは、6町のうち5町について設定している。この変数の効果は、除外した一つの町を基準として、その町の職員の回答はどうか、という情報を与えるものである。基準とした町は、合併自治体の中で人口が最も多く、地理的にも中心部に位置している。5町の中では、地域Cが同様にこの地域のある意味で政治の中心であり、残りの地域A、地域B、地域D、地域Eは周辺部・縁辺部に位置する町と言える。

<sup>7</sup> 順序ロジット分析も行っているが、基本的に同じ結果が得られている。スペースを節約する意味で省

行政サービスへの評価 {+2, +1, 0, -1, -2} = f (個人属性)

以下、8つの行政サービス分野のうち、2つずつ推定結果を掲載していく。

2-1. 窓口サービスと情報公開

Q8 - Ordered Pbit 分析	窓口サービス		情報公開	
gender(性別)	-0.0589 (-0.440)	-0.0925 (-0.695)	-0.0376 (-0.267)	-0.0579 (-0.414)
year(在職年数)	-0.0157 (-0.497)	-0.0223 (-0.712)	-0.0407 (-1.221)	-0.0469 (-1.425)
exp1(企画・総務経験ダミー)	0.00788 (0.0713)	0.00435 (0.0394)	<u>0.222*</u> (1.895)	<u>0.224*</u> (1.916)
exp2(財務・税務経験ダミー)	-0.00827 (-0.0748)	0.00249 (0.0226)	<u>0.219*</u> (1.866)	<u>0.217*</u> (1.858)
exp3(農林経験ダミー)	-0.133 (-1.110)	-0.129 (-1.080)	-0.00616 (-0.0487)	0.00467 (0.0372)
exp4(教育経験ダミー)	0.0888 (0.831)	0.110 (1.031)	0.0394 (0.350)	0.0453 (0.402)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	-0.0225 (-0.187)	-0.0116 (-0.0960)	-0.0127 (-0.100)	-0.00592 (-0.0468)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	0.00708 (0.0628)	0.0325 (0.289)	-0.0271 (-0.227)	-0.0195 (-0.164)
exp7(健康・医療経験ダミー)	0.0130 (0.108)	0.00123 (0.0104)	-0.0742 (-0.588)	-0.0654 (-0.521)
exp8(産業・経済経験ダミー)	0.201 (1.577)	<u>0.210*</u> (1.653)	<u>0.297**</u> (2.188)	<u>0.291**</u> (2.150)
exp9(土木・建設経験ダミー)	-0.0981 (-0.801)	-0.0979 (-0.801)	-0.112 (-0.867)	-0.102 (-0.798)
exp10(消防経験ダミー)	-0.0339 (-0.227)	-0.0368 (-0.248)	<u>-0.276*</u> (-1.782)	<u>-0.265*</u> (-1.721)
exp11(水道経験ダミー)	-0.0856 (-0.653)	-0.100 (-0.767)	0.0651 (0.468)	0.0615 (0.442)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	-0.116 (-0.671)	-0.144 (-0.839)	-0.242 (-1.306)	-0.249 (-1.346)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	0.0485 (0.260)	0.0434 (0.233)	0.317 (1.579)	0.316 (1.576)
lpos_sannan(前職が地域 B)	-0.259 (-1.451)	<u>-0.302*</u> (-1.699)	0.00718 (0.0381)	-0.0140 (-0.0745)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	-0.206 (-1.140)	-0.187 (-1.038)	<u>-0.435**</u> (-2.295)	<u>-0.429**</u> (-2.266)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.0328 (0.202)	-0.00371 (-0.0230)	0.0919 (0.531)	0.0640 (0.372)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	<u>-0.365**</u> (-2.043)	<u>-0.429**</u> (-2.420)	0.256 (1.335)	0.213 (1.120)
lpos_etc(前職が他自治体)	0.0250 (0.122)	-0.0311 (-0.152)	-0.0108 (-0.0501)	-0.0501 (-0.233)

略しているが、リクエストがあれば提供できる。

jujitu_d(合併後に充実感が向上ダミー)	0.246** (2.217)		0.00764 (0.0659)	
skillup_d(合併後に能力UPダミー)	0.247** (2.218)		0.177 (1.519)	
Cut Point1	-1.092*** (-5.377)	-1.350*** (-7.133)	-2.451*** (-8.476)	-2.591*** (-9.337)
Cut Point2	-0.0463 (-0.233)	-0.326* (-1.788)	-1.759*** (-7.496)	-1.894*** (-8.586)
Cut Point3	0.748*** (3.729)	0.452** (2.467)	-0.459** (-2.158)	-0.596*** (-3.033)
Cut Point4	1.966*** (8.772)	1.655*** (8.029)	1.235*** (5.608)	1.090*** (5.405)
Pseudo R-squared	0.026	0.014	0.040	0.037
Observations	468	468	463	463

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

この回帰分析から、以下の点を見出すことができる。

(1)「窓口サービス」に関しては、「産業・経済」の職務経験者が弱いながらプラスの評価として表れた。他の職務経験とは相関関係を見出すことはできなかった。2つの町(自治体BとE)の職員だった人は、有意にマイナスの評価を与えていた。この2つの町とも、周辺地域に相当することから、窓口サービスへの評価が下がっていることも考えられるが、同じ周辺地域でも他の役場の職員からは必ずしも有意な結果が得られなかった。また、合併後の仕事に充実感、能力向上を覚えている人は、窓口サービスにプラスの評価を与えており、これも興味深いものであった。

(2)「情報公開」は、行政サービス8分野の中で、突出して高い評価を得ていた。この分析においては、「企画・総務」「税務・財務」「産業・経済」の職務経験者がプラスの評価を与え、逆に「消防」経験者がマイナスの評価を与えていた。前役場については、中心部に位置する自治体Cの職員がマイナスの評価を与えていた。

## 2-2. ごみ収集・処理と福祉・介護

	ごみ収集・処理		福祉・介護	
gender(性別)	0.224 (1.561)	0.197 (1.384)	-0.321** (-2.316)	-0.354** (-2.572)
year(在職年数)	-0.0528 (-1.541)	-0.0581* (-1.714)	-0.0745** (-2.244)	-0.0844** (-2.568)
exp1(企画・総務経験ダミー)	0.0787 (0.646)	0.0772 (0.636)	0.202* (1.737)	0.201* (1.727)
exp2(財務・税務経験ダミー)	0.127 (1.042)	0.133 (1.101)	0.124 (1.067)	0.121 (1.045)
exp3(農林経験ダミー)	-0.0366 (-0.280)	-0.0319 (-0.246)	-0.0187 (-0.149)	0.000304 (0.00244)
exp4(教育経験ダミー)	0.164 (1.403)	0.176 (1.511)	0.192* (1.704)	0.198* (1.767)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	0.0157 (0.121)	0.0258 (0.199)	-0.137 (-1.080)	-0.122 (-0.964)



exp6(福祉・介護経験ダミー)	0.175 (1.423)	0.189 (1.548)	0.0183 (0.156)	0.0399 (0.341)
exp7(健康・医療経験ダミー)	-0.0442 (-0.340)	-0.0524 (-0.406)	0.131 (1.051)	0.131 (1.055)
exp8(産業・経済経験ダミー)	-0.0499 (-0.360)	-0.0373 (-0.270)	-0.0294 (-0.220)	-0.0204 (-0.153)
exp9(土木・建設経験ダミー)	0.0109 (0.0817)	0.0118 (0.0893)	-0.0889 (-0.687)	-0.0844 (-0.655)
exp10(消防経験ダミー)	0.256 (1.595)	0.255 (1.598)	-0.293* (-1.867)	-0.282* (-1.806)
exp11(水道経験ダミー)	-0.0624 (-0.435)	-0.0730 (-0.511)	0.0689 (0.500)	0.0649 (0.472)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	-0.114 (-0.598)	-0.133 (-0.702)	-0.0348 (-0.193)	-0.0594 (-0.331)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	0.0994 (0.491)	0.0869 (0.430)	-0.0477 (-0.246)	-0.0486 (-0.251)
lpos_sannan(前職が地域 B)	0.0934 (0.483)	0.0600 (0.312)	0.466** (-2.496)	0.501*** (-2.691)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	0.0116 (0.0585)	0.0112 (0.0562)	-0.0909 (-0.482)	-0.0909 (-0.483)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.130 (0.733)	0.101 (0.575)	0.158 (0.913)	0.106 (0.618)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	0.354* (1.828)	0.302 (1.577)	0.0137 (0.0733)	-0.0570 (-0.307)
lpos_etc(前職が他自治体)	0.214 (0.962)	0.166 (0.756)	-0.0110 (-0.0504)	-0.0874 (-0.404)
jujitu_d(合併後に充実感が向上ダミー)	0.130 (1.087)		0.0663 (0.578)	
skillup_d(合併後4年間で能力 UP ダミー)	0.192 (1.615)		0.291** (2.506)	
-----				
Cut Point1	-1.684*** (-7.034)	-1.865*** (-8.286)	-1.874*** (-8.209)	-2.104*** (-9.809)
Cut Point2	-0.981*** (-4.439)	-1.169*** (-5.704)	-0.794*** (-3.759)	-1.039*** (-5.344)
Cut Point3	1.119*** (5.043)	0.915*** (4.519)	0.643*** (3.030)	0.379** (1.972)
Cut Point4	2.273*** (9.211)	2.059*** (9.048)	1.982*** (8.217)	1.713*** (7.675)
-----				
Pseudo R-squared	0.026	0.020	0.046	0.038
Observations	468	468	445	445

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

この推定結果からは、以下のような点を読み取ることができる。

- (1) 「ごみ収集・処理」サービスに関しては、在職年数が長い人ほど、弱いながらマイナスの評価を与えていた。それ以外の職務経験ダミーはまったく有意に現れなかった。前役場ダミーは、地域 E のみが弱いながらプラスの評価を示していた。
- (2) 「福祉・介護」サービスに関しては、かなりの変数が有意に現れていた。まず性別は女性の場合、そして在職年数が長い人ほど、有意にマイナスの評価を与える傾向があった。職務経験ダミーは、「企画・総務」「教育」の経験者がプラス評価、「消防」がマイナス評価を与えていた。地域ダミーでは、前役場が自治体 B であった場合にマイナスの評価が与えられていた。さらに合併後に能力が

向上したと答えた人ほど、プラスの評価を与える傾向にあった。

### 2-3. 保健・医療と学校教育・保育

	保健・医療		学校教育・保育	
gender(性別)	-0.154 (-1.137)	-0.182 (-1.348)	-0.219 (-1.580)	-0.238* (-1.723)
year(在職年数)	0.0837** (-2.570)	-0.0916*** (-2.839)	-0.0437 (-1.307)	-0.0531 (-1.608)
exp1(企画・総務経験ダミー)	0.0959 (0.839)	0.0953 (0.835)	0.156 (1.322)	0.161 (1.367)
exp2(財務・税務経験ダミー)	0.0741 (0.648)	0.0707 (0.620)	0.254** (2.145)	0.243** (2.054)
exp3(農林経験ダミー)	-0.139 (-1.132)	-0.126 (-1.030)	-0.0530 (-0.417)	-0.0367 (-0.290)
exp4(教育経験ダミー)	-0.0754 (-0.686)	-0.0675 (-0.615)	0.0343 (0.307)	0.0351 (0.314)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	-0.149 (-1.197)	-0.137 (-1.102)	-0.286** (-2.228)	-0.282** (-2.195)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	0.0774 (0.670)	0.0929 (0.808)	0.227* (1.887)	0.229* (1.913)
exp7(健康・医療経験ダミー)	-0.0876 (-0.721)	-0.0842 (-0.695)	-0.0757 (-0.596)	-0.0658 (-0.519)
exp8(産業・経済経験ダミー)	0.190 (1.443)	0.195 (1.481)	0.0630 (0.464)	0.0632 (0.466)
exp9(土木・建設経験ダミー)	0.164 (1.293)	0.171 (1.351)	-0.296** (-2.280)	-0.276** (-2.136)
exp10(消防経験ダミー)	-0.471*** (-3.052)	-0.458*** (-2.981)	-0.111 (-0.689)	-0.0858 (-0.535)
exp11(水道経験ダミー)	-0.176 (-1.303)	-0.182 (-1.344)	-0.0362 (-0.261)	-0.0350 (-0.253)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	0.0398 (0.227)	0.0237 (0.136)	0.0274 (0.150)	0.0199 (0.109)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	0.0704 (0.366)	0.0648 (0.337)	0.175 (0.875)	0.173 (0.866)
lpos_sannan(前職が地域 B)	-0.135 (-0.739)	-0.165 (-0.910)	-0.310* (-1.683)	-0.332* (-1.809)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	0.0333 (0.178)	0.0262 (0.140)	-0.0397 (-0.208)	-0.0448 (-0.235)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.254 (1.501)	0.215 (1.281)	0.0443 (0.255)	0.00580 (0.0336)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	0.344* (1.856)	0.289 (1.578)	-0.0443 (-0.235)	-0.0871 (-0.466)
lpos_etc(前職が他自治体)	0.132 (0.613)	0.0692 (0.326)	0.0969 (0.430)	0.0302 (0.136)
jujitu_d(合併後に充実感が向上ダミー)	0.00874 (0.0776)		-0.135 (-1.158)	
skillup_d(合併後4年間で能力 UP ダミー)	0.219* (1.942)		0.226* (1.938)	

Cut Point1	-1.386*** (-6.413)	-1.556*** (-7.776)	-1.685*** (-7.350)	-1.809*** (-8.531)
Cut Point2	-0.442** (-2.105)	-0.618*** (-3.215)	-0.712*** (-3.280)	-0.838*** (-4.230)
Cut Point3	0.822*** (3.881)	0.640*** (3.318)	1.028*** (4.660)	0.894*** (4.468)
Cut Point4	2.006*** (8.021)	1.818*** (7.812)	2.272*** (8.244)	2.119*** (8.270)
Pseudo R-squared	0.033	0.029	0.037	0.033
Observations	453	453	454	454

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

この推定結果からは、以下のような関係を観察することができる。

- (1) 「保健・医療」サービスに関しては、まず在職年数が長いほどマイナスの評価をしている傾向が示された。職務経験では、「消防」の経験者がマイナスの評価を下していた。合併前に地域 E の役場にいた職員、そしてまた合併後能力が向上したと感じている職員は、プラスの評価を与える傾向にあった。「消防」の経験者が「保健・医療」に関してマイナスの評価というのは、一見、関係のない職務のようであるが、救急医療に対する懸念から案外関連しているのかもしれない。
- (2) 「学校教育・保育」サービスは、性別が女性の場合に、弱いながらマイナスの評価が与えられていた。職務経験では、「税務・財務」「福祉・介護」の経験者がプラス評価、「環境・衛生」「土木・建設」の経験者がマイナス評価を与える傾向があった。また合併前に地域 B の役場にいた職員は、マイナスの評価であった。そして合併後に能力が向上したと感じている職員は、プラスの評価であった。

#### 2-4. 防犯・防災と生涯学習・文化・スポーツ

	防犯・防災		生涯学習・文化・スポーツ	
gender(性別)	-0.0315 (-0.224)	-0.0378 (-0.270)	-0.0726 (-0.528)	-0.0730 (-0.533)
year(在職年数)	<del>-0.104***</del> (-3.116)	<del>-0.105***</del> (-3.157)	<del>-0.117***</del> (-3.524)	<del>-0.117***</del> (-3.543)
exp1(企画・総務経験ダミー)	0.123 (1.046)	0.119 (1.018)	-0.181 (-1.556)	-0.182 (-1.568)
exp2(財務・税務経験ダミー)	-0.105 (-0.900)	-0.100 (-0.861)	-0.0456 (-0.396)	-0.0437 (-0.381)
exp3(農林経験ダミー)	-0.0306 (-0.241)	-0.0349 (-0.277)	0.0626 (0.504)	0.0604 (0.487)
exp4(教育経験ダミー)	0.124 (1.105)	0.127 (1.128)	<del>-0.386***</del> (-3.448)	<del>-0.385***</del> (-3.445)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	<del>-0.314**</del> (-2.478)	<del>-0.310**</del> (-2.447)	<del>-0.212*</del> (-1.691)	<del>-0.212*</del> (-1.692)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	-0.00626 (-0.0522)	0.00233 (0.0195)	0.0938 (0.793)	0.0953 (0.807)
exp7(健康・医療経験ダミー)	<del>0.212*</del> (1.658)	0.206 (1.623)	0.0262 (0.209)	0.0240 (0.192)

exp8(産業・経済経験ダミー)	-0.0230 (-0.171)	-0.0184 (-0.137)	-0.158 (-1.201)	-0.156 (-1.190)
exp9(土木・建設経験ダミー)	-0.197 (-1.513)	-0.201 (-1.551)	-0.253* (-1.957)	-0.256** (-1.981)
exp10(消防経験ダミー)	-0.0109 (-0.0706)	-0.0153 (-0.100)	-0.0639 (-0.418)	-0.0667 (-0.438)
exp11(水道経験ダミー)	-0.0484 (-0.347)	-0.0504 (-0.362)	0.00995 (0.0731)	0.00953 (0.0700)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	0.0798 (0.442)	0.0732 (0.405)	0.163 (0.896)	0.162 (0.895)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	-0.0183 (-0.0920)	-0.0224 (-0.113)	0.0905 (0.463)	0.0897 (0.459)
lpos_sannan(前職が地域 B)	0.102 (0.548)	0.0884 (0.476)	-0.0593 (-0.325)	-0.0610 (-0.335)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	-0.0971 (-0.513)	-0.0976 (-0.516)	0.0214 (0.113)	0.0214 (0.113)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.477*** (2.755)	0.471*** (2.732)	0.163 (0.951)	0.163 (0.961)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	0.0184 (0.0989)	0.00362 (0.0196)	-0.00984 (-0.0529)	-0.0105 (-0.0570)
lpos_etc(前職が他自治体)	-0.115 (-0.527)	-0.126 (-0.582)	-0.284 (-1.307)	-0.283 (-1.312)
jujitu_d(合併後に充実感が向上ダミー)	0.0910 (0.787)		0.0318 (0.277)	
skillup_d(合併後4年感で能力UPダミー)	0.0305 (0.263)		-0.00774 (-0.0675)	
Cut Point1	-2.229*** (-9.454)	-2.288*** (-10.40)	-2.030*** (-9.030)	-2.036*** (-9.809)
Cut Point2	-1.197*** (-5.486)	-1.257*** (-6.269)	-0.914*** (-4.267)	-0.922*** (-4.701)
Cut Point3	0.396* (1.860)	0.334* (1.718)	0.614*** (2.871)	0.607*** (3.104)
Cut Point4	1.845*** (7.436)	1.783*** (7.682)	1.916*** (6.236)	1.911*** (6.452)
Pseudo R-squared	0.042	0.041	0.054	0.054
Observations	452	452	455	455

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

この推定結果からは、以下のような関係を観察することができる。

(1) 「防犯・防災」サービスは、在職年数が長くなるほど、有意にマイナスの評価を下す傾向が示された。職務経験では、「環境・衛生」がマイナス評価、「健康・医療」が（有意性は弱いものの）プラス評価を与えていた。前役場が自治体Dであった職員は、プラス評価を与える傾向が現れた。

(2) 「生涯学習・文化・スポーツ」サービスについては、やはり在職年数が長くなるほど、有意にマイナス評価であった。職務経験では、「教育」「環境・衛生」「土木・建設」の3分野の経験者がマイナスの評価を示していた。合併前の役場については、有意な関係を見出せなかった。

### 3. Q8【各行政サービスへの評価】の間の相関関係

Q8では、行政サービスを8つの分野に分けて、それぞれのサービスについて合併後にそれが向上したかどうかを尋ねた。ここでは各サービス分野への評価が、相互に相関を持っているかどうかを分析してみることにする。

#### 3-1. 8つの行政サービス分野間の相関係数

以下の表は、{+2~-2}の点数で評価された各行政サービス相互間で、まず単純に相関係数をとって見た結果である。

相関係数はすべてプラスの値であり、少なくともまったく異なる傾向の評価が与えられたものはないと言えるが、際立って相関係数の高いものもまたなかった。{+2~-2}という制約された点数間の相関係数で、限界があるとも言える。しかしその中で、比較的相関係数が高く、0.4を上回っていたのが、[保健・医療⇄福祉・介護]、[学校教育・保育⇄福祉・介護]、[学校教育・保育⇄保健・医療]、[防犯・防災⇄学校教育・保育]の4つの組み合わせであった。逆に比較的相関係数が低く、0.2を下回っていたのが、[保健・医療⇄情報公開]、[生涯学習・文化・スポーツ⇄情報公開]、[生涯学習・文化・スポーツ⇄ごみ収集・処理]の3つの組み合わせであった。

「情報公開」は、Q8において他の行政サービスと比較して、際立って高い評価を受けていたことから、他の行政サービスとは異なる評価を受けていたことが推察される。それが相関係数の低いこの2つの組み合わせに現れてきた可能性が考えられる。同様に、「生涯学習・文化・スポーツ」は、Q8において最も低い評価を受けていたが、それもまたここでの結果に現れてきた可能性がある。

次項以降では、これらの相関係数が相対的に高かった4つの組み合わせと低かった3つの組み合わせについて、クロス集計の具体的結果を示してみることにする。

	A. 窓口サービス	B. 情報公開	C. ごみ収集・処理	D. 福祉・介護	E. 保健・医療	F. 学校教育・保育	G. 防犯・防災	H. 生涯学習・文化・スポーツ
A. 窓口サービス	1							
B. 情報公開	0.2106	1						
C. ごみ収集・処理	0.2559	0.2781	1					
D. 福祉・介護	0.2555	0.2433	0.2942	1				
E. 保健・医療	0.2089	0.1816	0.3425	0.5456	1			
F. 学校教育・保育	0.2341	0.2065	0.2022	0.4034	0.4029	1		
G. 防犯・防災	0.2251	0.2208	0.2840	0.3530	0.2930	0.4377	1	
H. 生涯学習・文化・スポーツ	0.2176	0.1001	0.1872	0.2734	0.2755	0.3259	0.3471	1

### 3-2. 相関係数の高かったケース①—E 保健・医療⇔D 福祉・介護への評価のクロス集計

		福祉・介護					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
保健・医療	かなり向上した	7	0	1	0	0	0
	少し向上した	3	54	14	5	0	3
	変わらない	1	33	192	14	5	4
	少し低下した	0	20	42	90	7	8
	かなり低下した	0	13	28	18	31	10
	分からない	1	0	1	1	0	50

この2つの行政サービスへの評価は、相関係数で 0.5456 と最も高かった。クロス集計から分かることは、全体の回答者の約 65%の人が、左上から右下への対角線上に居ること、つまり2つのサービスに同じ評価を与えていることである。とくに、両サービスに「変わらない」という評価で一致した人が約 3割、次いで「少し低下」で一致していた人が約 15%存在していた。両者「分からない」の回答が他の分野よりもやや多いのも特徴である。

「保健・医療」と「福祉・介護」は、隣接する行政サービス分野でもあり、そのことから類似した評価になったことが考えられる。

### 3-3. 相関係数の高かったケース②—F 学校教育・保育⇔D 福祉・介護への評価のクロス集計

		福祉・介護					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
学校教育・保育	かなり向上した	3	1	1	0	0	0
	少し向上した	5	39	20	12	1	4
	変わらない	2	62	183	59	11	15
	少し低下した	1	14	59	43	9	7
	かなり低下した	0	3	11	10	18	7
	分からない	1	1	2	4	4	42

この2つの行政サービス間の相関係数は 0.4034 であった。やはり回答者の約半数が対角線上に位置していることが、その要因と言える。ただし、2番目に多い回答の組み合わせが、学校教育・保育「変わらない」+福祉・介護「少し向上」、3番目に多い組み合わせが、学校教育・保育「変わらない」+福祉・介護「少し低下」と学校教育・保育「少し低下」+福祉・介護「少し向上」で、やや対角線上から外れた組み合わせで評価を与えた人もいたことで、相関係数が下がったと言えよう。

3-4. 相関係数の高かったケース③-F 学校教育・保育⇔E 保健・医療のクロス集計

		保健・医療					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
学校教育・ 保育	かなり向上した	3	2	0	0	0	0
	少し向上した	3	35	21	14	4	4
	変わらない	1	28	179	82	34	7
	少し低下した	0	11	43	50	29	2
	かなり低下した	0	1	4	14	25	5
	分からない	1	2	2	6	8	35

この2つの行政サービス間の相関係数は0.4026であった。やはり回答者の約半数が対角線上に位置している。ただ、2番目に多い回答の組み合わせが、学校教育・保育「変わらない」+保健・医療「少し低下」であり、やはり対角線外にもやや回答が分散しているため、相関係数がやや低下したと思われる。

3-5. 相関係数の高かったケース④-G 防犯・防災⇔F 学校教育・保育

		学校教育・保育					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
防犯・ 防災	かなり向上した	4	4	0	0	0	0
	少し向上した	1	45	59	17	5	3
	変わらない	0	23	207	69	18	6
	少し低下した	0	3	53	35	11	4
	かなり低下した	0	0	7	5	12	1
	分からない	0	6	4	7	3	39

この2つの行政サービス間の相関係数は0.4377であった。回答者の半数強が対角線上にいたことがやはり効いている。とくに、両サービスとも「変わらない」という評価をしている人が他のケースと比べて最も多い3割強を占めていることが特徴と言える。ただし、2番目に多い組み合わせが、防犯・防災「変わらない」⇔学校教育・保育「少し低下」、3番目が、防犯・防災「少し向上」⇔学校教育・保育「変わらない」と、やや対角線の外側の回答も多かったことで相関関係が低下したと言えよう。

### 3-6. 相関係数の低かったケース①-H 生涯学習・文化・スポーツ-B 情報公開

		情報公開					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
生涯学習・文化・スポーツ	かなり向上した	2	0	0	0	0	0
	少し向上した	9	36	6	1	0	2
	変わらない	16	147	82	9	1	9
	少し低下した	35	98	44	5	2	9
	かなり低下した	7	29	26	7	2	7
	分からない	5	15	5	1	3	28

次に、相関係数の低かった方から3つのケース（組み合わせ）を検討してみよう。まず〔生涯学習・文化・スポーツ⇔情報公開〕の組み合わせである。相関係数は0.1001と最も低い値であった。Q8の質問で、「生涯学習・文化・スポーツ」は合併後にサービスが低下したとの回答が最も多く、他方、「情報公開」はサービスが向上したとの回答が最も多く、両者への評価の組み合わせは興味あるところであったが、やはり相関係数で見ても両サービスへの評価の違いが現れたと言える。

対角線上の回答をしている人は25%以下しかおらず、そこから外れた回答が多い。情報公開に対しては「かなり向上」「少し向上」「変わらない」という回答をしている人が大半ではあるが、生涯学習・文化・スポーツに対する回答は分散している。その中でも、情報公開「少し向上」⇔生涯学習・文化・スポーツ「変わらない」が最も多く、それだけで2割以上を占めている。他の組み合わせでは見られない情報公開「かなり向上」⇔生涯学習・文化・スポーツ「かなり低下」という逆対角線上の回答者もいること、情報公開「少し向上」⇔生涯学習・文化・スポーツ「少し低下」という、逆対角線上に近い回答者が15%もいることが特徴である。そしてそれらのことが相関係数を下げたと言える。

### 3-7. 相関係数の低かったケース②-E 保健・医療-B 情報公開

		情報公開					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
保健・医療	かなり向上した	3	3	1	0	0	1
	少し向上した	13	52	11	0	0	3
	変わらない	27	134	76	5	0	5
	少し低下した	17	83	43	10	2	11
	かなり低下した	11	38	28	8	3	11
	分からない	4	20	2	0	3	24

この2つの行政サービス間の相関係数は0.1816であった。対角線上の回答者は約25%で、最も多い回答が、保健・医療「変わらない」⇔情報公開「少し向上」で約20%であり、情報公開では向上したとの評価をしても、保健・医療への評価は分散しており、それが相関係数を引き下げたと言える。



3-8. 相関係数の低かったケース③—II 生涯学習・文化・スポーツ-C ごみ収集・処理

		ごみ収集・処理					
		かなり向上した	少し向上した	変わらない	少し低下した	かなり低下した	分からない
生涯学習・文化・スポーツ	かなり向上した	2	0	0	0	0	0
	少し向上した	2	24	27	1	0	1
	変わらない	7	43	179	21	6	10
	少し低下した	5	31	131	19	1	6
	かなり低下した	1	11	48	9	8	2
	分からない	2	4	20	5	1	25

この2つの行政サービス間の相関係数は0.1872であった。対角線上の回答者が4割を占め、最も多い回答の組み合わせが両サービス「変わらない」であり、それだけで約28%を占めていた。しかしその一方で、全体的に回答が分散している傾向もある。ごみ収集・処理では「変わらない」との評価をしている人も、生涯学習・文化・スポーツでは回答が「向上」から「低下」までかなり分散していることが分かる。この辺りが相関係数を引き下げたものと推察される。

4. Q9【支所体制への回答】の【個人属性】に対する回帰分析

Q9では「現在の支所をどうすべきか」を尋ねている。その回答に{より充実していくべき=+1、現状を維持していくべき=0、半分程度への廃止・統合が必要=-1、大幅な廃止・統合が必要である=-2}を与え、個人属性に回帰させてみる。回帰式の形で示せば以下のようなになる。回帰の手法としては、これまでと同様に順序プロビット分析と順序ロジット分析を用いる。

$$\text{支所体制への意見 } \{+1, 0, -1, -2\} = f(\text{個人属性})$$

	Ordered probit		Ordered logit	
gender(性別)	0.288** (2.077)	0.268* (1.951)	0.414* (1.800)	0.390* (1.714)
year(在職年数)	0.0659** (1.995)	0.0600* (1.836)	0.109** (1.972)	0.103* (1.879)
exp1(企画・総務経験ダミー)	-0.0914 (-0.785)	-0.0900 (-0.773)	-0.155 (-0.797)	-0.158 (-0.815)
exp2(財務・税務経験ダミー)	-0.141 (-1.217)	-0.146 (-1.260)	-0.270 (-1.385)	-0.275 (-1.414)
exp3(農林経験ダミー)	0.102 (0.786)	0.116 (0.903)	0.204 (0.915)	0.224 (1.017)
exp4(教育経験ダミー)	0.0684 (0.613)	0.0729 (0.653)	0.123 (0.662)	0.128 (0.693)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	-0.0631 (-0.498)	-0.0623 (-0.492)	-0.0798 (-0.373)	-0.0812 (-0.380)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	-0.139 (-1.182)	-0.136 (-1.159)	-0.215 (-1.113)	-0.211 (-1.095)

exp7(健康・医療経験ダミー)	-0.0502 (-0.397)	-0.0364 (-0.289)	-0.0742 (-0.351)	-0.0591 (-0.281)
exp8(産業・経済経験ダミー)	-0.169 (-1.215)	-0.168 (-1.214)	-0.305 (-1.303)	-0.307 (-1.316)
exp9(土木・建設経験ダミー)	-0.105 (-0.811)	-0.0955 (-0.743)	-0.184 (-0.854)	-0.170 (-0.790)
exp10(消防経験ダミー)	-0.0740 (-0.468)	-0.0578 (-0.368)	-0.0610 (-0.225)	-0.0423 (-0.157)
exp11(水道経験ダミー)	0.0505 (0.363)	0.0454 (0.327)	0.0644 (0.277)	0.0517 (0.223)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	-0.134 (-0.723)	-0.148 (-0.800)	-0.276 (-0.884)	-0.294 (-0.945)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	0.220 (1.123)	0.217 (1.109)	0.395 (1.210)	0.398 (1.221)
lpos_sannan(前職が地域 B)	0.416** (2.218)	0.405** (2.166)	0.689** (2.186)	0.685** (2.179)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	-0.00436 (-0.0228)	-0.00364 (-0.0191)	-0.00165 (-0.00520)	0.00341 (0.0108)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	-0.0847 (-0.484)	-0.107 (-0.613)	-0.128 (-0.433)	-0.148 (-0.506)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	0.00429 (0.0226)	-0.0247 (-0.132)	0.00136 (0.00420)	-0.0325 (-0.102)
lpos_etc(前職が他自治体)	0.289 (1.320)	0.254 (1.172)	0.476 (1.304)	0.445 (1.226)
jujitu_d(合併後に充実感が向上ダミー)	-0.0621 (-0.540)		-0.0731 (-0.383)	
skillup_d(合併後4年感で能力 UP ダミー)	0.150 (1.302)		0.175 (0.915)	
Cut Point1	-0.652*** (-3.031)	-0.742*** (-3.764)	-1.122*** (-3.124)	-1.223*** (-3.713)
Cut Point2	-0.0224 (-0.105)	-0.112 (-0.571)	-0.0549 (-0.155)	-0.153 (-0.473)
Cut Point3	0.854*** (3.958)	0.764*** (3.865)	1.371*** (3.821)	1.273*** (3.866)
Cut Point4				
Pseudo R-squared	0.026	0.025	0.026	0.025
Observations	449	449	449	449

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

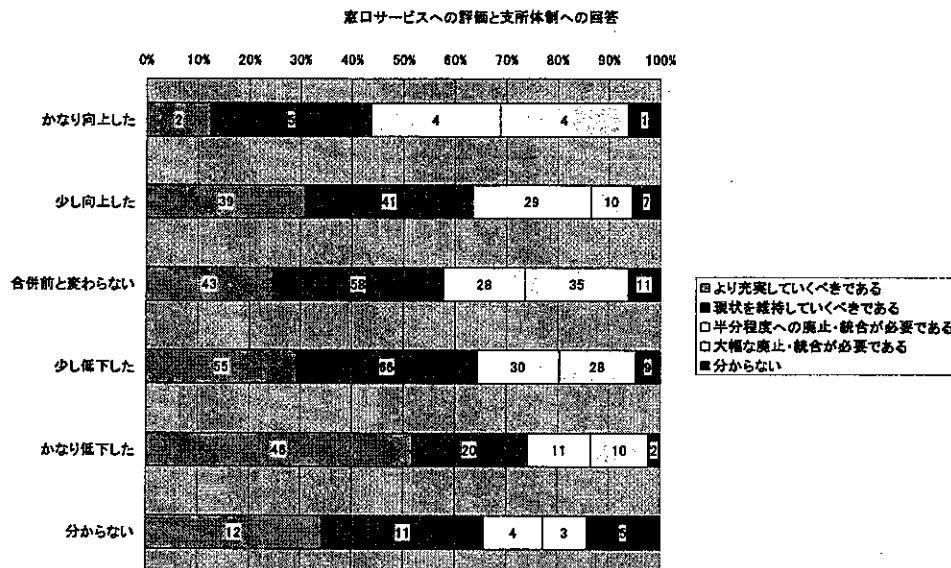
推定結果は、女性で、在職年齢が長い人ほど、支所体制を「充実していくべき」あるいは「廃止・統合すべきではない」という回答を有意に行っていることが示された。これまでの仕事の経験が長い人ほど、支所や地域住民とのつながりに対する思い入れが強いと言えるかもしれない。

また、地域別では、自治体 B の役場にいた職員のみが、「充実していくべき」「廃止・統合すべきではない」という意見を有意に表明していることが示された。自治体 B は縁辺地域に当たり、確かに支所を残して欲しいという思いは強いと思われる。ただ、同じような縁辺地域に当たる前役場職員からはそうした結果は現れなかった。単純に周辺であるからということでもないようである。

## 5. Q8【各種行政サービスへの評価】とQ9【支所体制への回答】のクロス集計

続いて、先に検討した Q8【各種行政サービスへの評価】と前節で検討した Q9【支所体制への回答】との間でクロス集計をしてみよう。

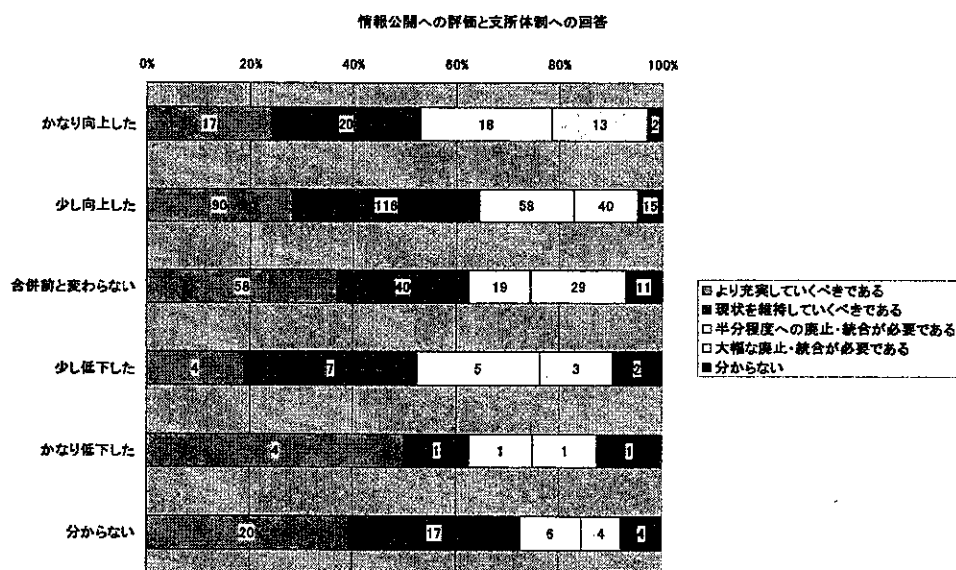
### 5-1. 【窓口サービスへの評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



両質問への回答には全体的に相関関係が観察される。窓口サービスが「かなり低下した」と評価している人とそれ以外の人の中で比較すると、「かなり低下した」と答えた人は、支所体制を「より充実していくべき」とはっきりと答え、「大幅な廃止・統合が必要である」と言う人の割合は少ない。

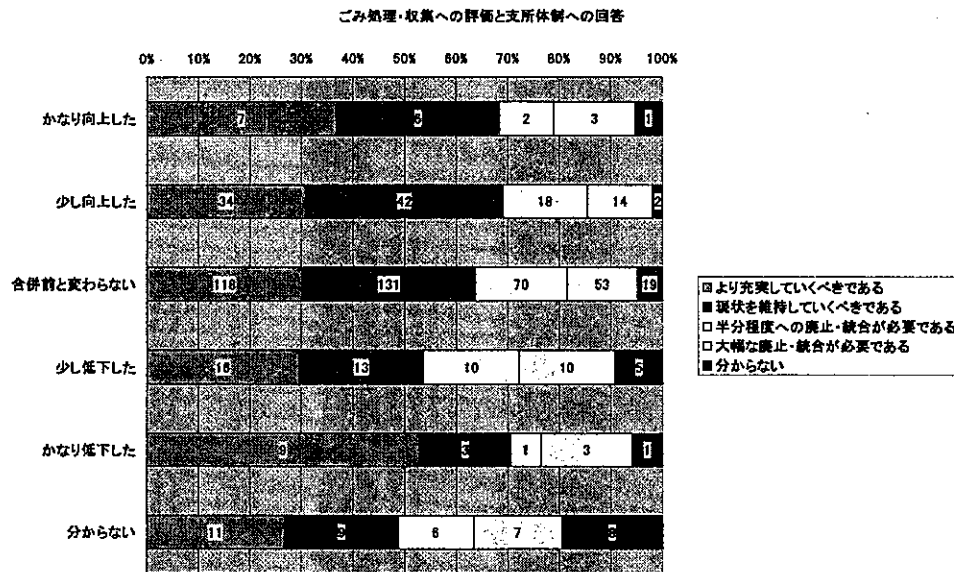
また、やや微妙な差ではあるが、窓口サービスが「少し向上した」と答えた人と「合併前と変わらない」と答えた人を比較すると、前者の方が「より充実」「現状維持」と回答している割合が高く、後者の方が「大幅な廃止が必要」という割合が高くなっている。

### 5-2. 【情報公開への評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



ここでも、情報公開が「かなり向上」「少し向上」「変わらない」の間で見ると、行政サービスへの評価が下がるほど、支所体制を「より充実していくべき」という回答の割合が高くなっている。

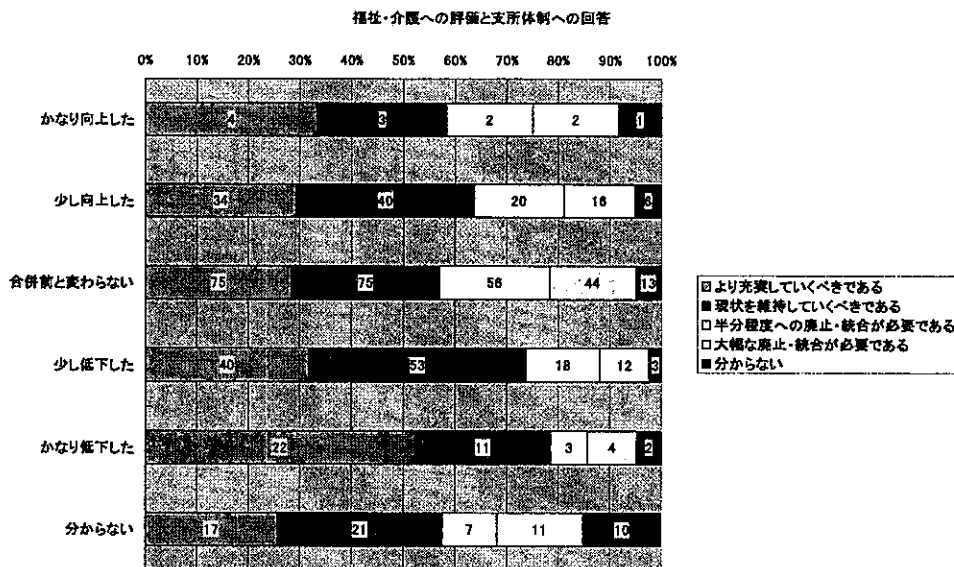
### 5-3. 【ごみ収集・処理への評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



この両質問への回答の間には全体的な傾向までは見出せないが、ごみ収集・処理サービスへの評価が下がるほど、支所を「半分程度への廃止・統合」「大幅な廃止・統合」と回答している割合が増えている。この2つのサービスは異なる分野であり同時に提供されるものではない。しかしそれでも、サービス間のトレードオフということが意識されているのかもしれない。

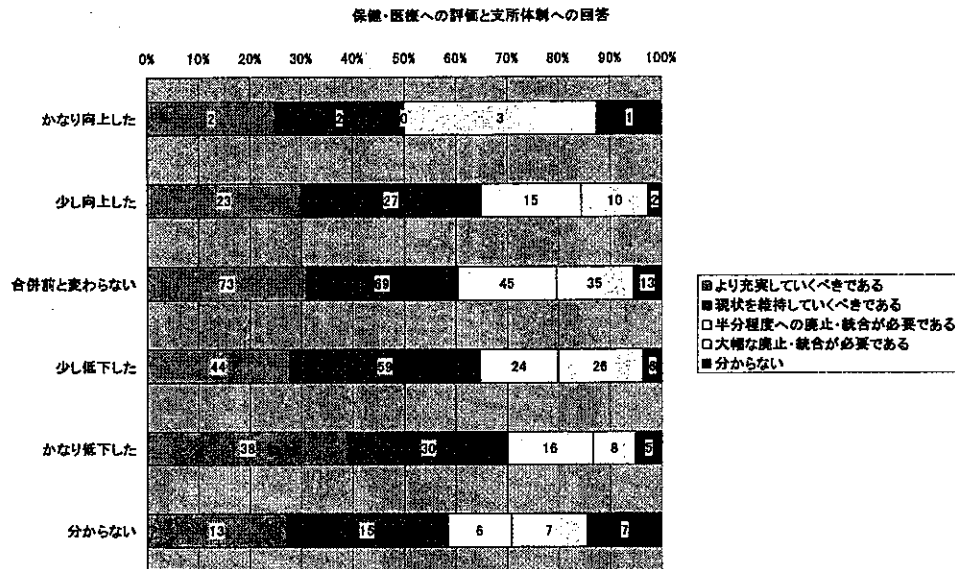
またサービスが「かなり低下した」と回答している人は、他の行政サービスへの評価と同様に、支所体制は「より充実していくべき」と回答している割合が高い。

### 5-4. 【福祉・介護への評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



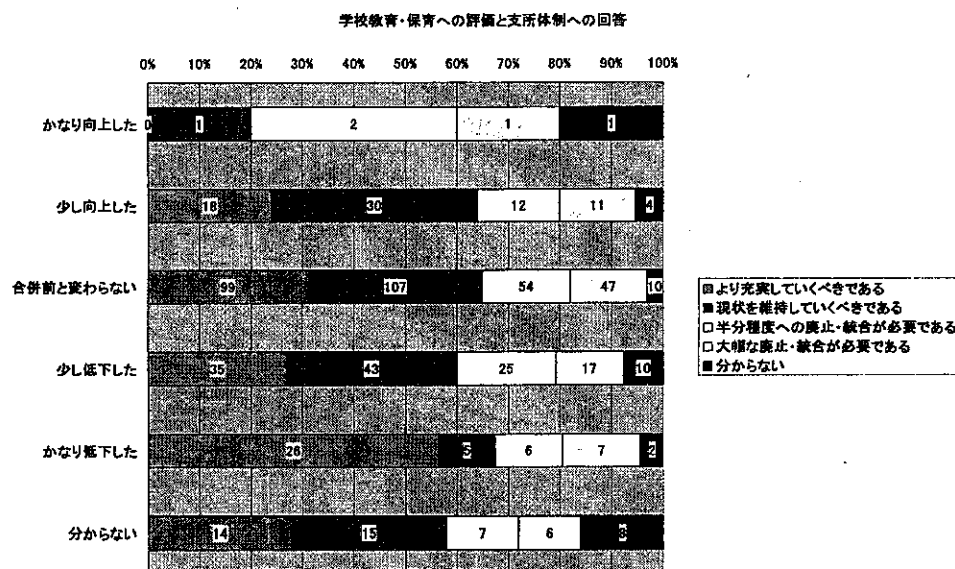
このクロス集計では、福祉・介護サービスを「かなり向上」「少し向上」「変わらない」と見ている人と「少し低下」「かなり低下」と見ている人の間で、回答に違いが観察される。つまり、「少し低下」と回答している人は支所の「現状維持」を、「かなり低下」と回答している人は支所を「より充実していくべき」、と回答している割合が明確に高い。福祉・介護サービスも支所サービスも住民と直接に接するという点では関連性をもつからかもしれない。

### 5-5. 【保健・医療への評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



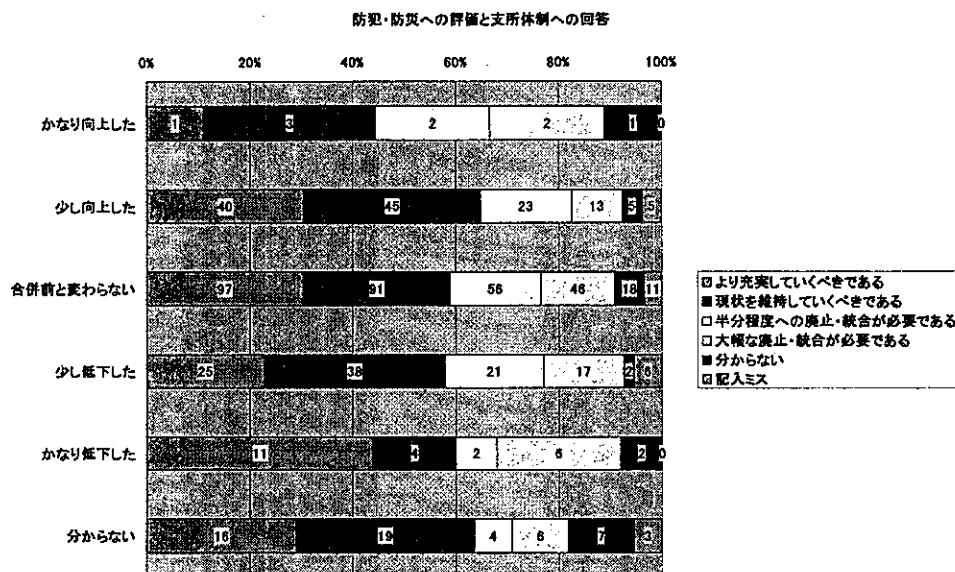
このクロス集計では、保健・医療サービスへの評価と支所への考え方の間には、明確な相関は観察されない。ただ、保健・医療サービスが「かなり低下」と回答している人だけは、やはり支所体制を「より充実していくべき」と回答している割合が他のグループよりも高くなっている。

### 5-6. 【学校教育・保育への評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



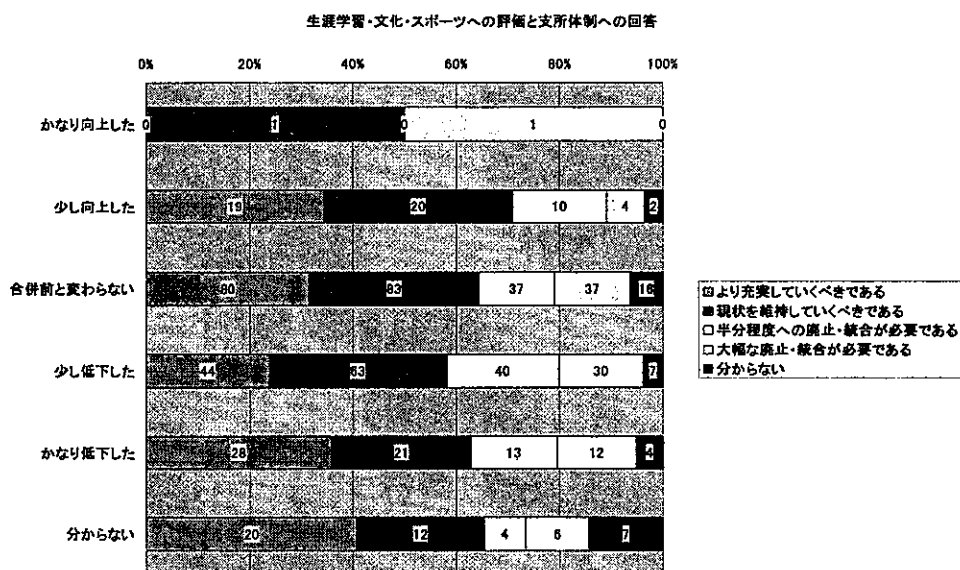
このクロス集計も前述したケースとほとんど同じ様相を呈している。学校教育・保育サービスへの評価と支所体制への考え方の間には明確な相関関係はないようである。ただし、このサービスが「かなり低下」と答えている人だけは、その50%以上が支所体制を「より充実していくべき」と回答している。

### 5-7. 【防犯・防災への評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



このクロス集計でも、防犯・防災サービスへの評価と支所体制への考え方の間には、はっきりした傾向が見られない。ただし、このサービスが「かなり低下した」と回答している人だけは、支所をより「充実していくべき」と回答している割合が高い。またもう一つ、このグループでは、回答数が少ない点は考慮すべきであるが、支所の「大幅な廃止・統合が必要」という回答の割合も多くなっている点の特筆できる。防犯・防災サービスと支所サービスを補完的なサービスと見ている人、代替的な関係があると見ている人の両方がいる可能性がある。

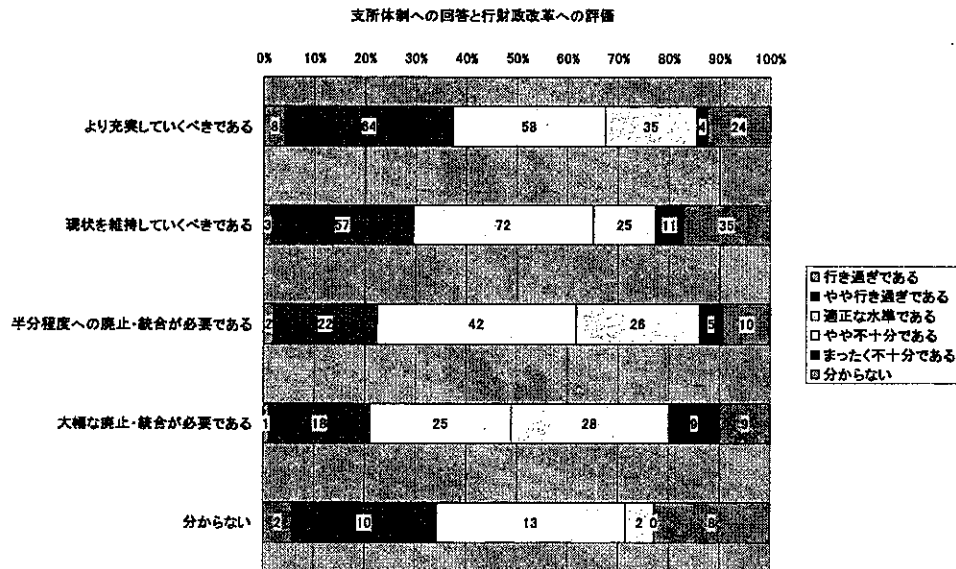
### 5-8. 【生涯学習・文化・スポーツへの評価】と【支所体制への考え方】のクロス集計



この両質問への回答には、相関関係らしきものは見られなかった。ただ、生涯学習・文化・スポーツサービスが「少し低下した」と評価したグループで、支所体制を「より充実していくべき」と答えた人の割合が最も低く、「半分程度への廃止・統合」「大幅な廃止・統合」が必要と答えた人の割合が最も高くなっている。このサービスへの評価に複雑な思いが込められていることが推察される。

## 6. Q9【支所体制への回答】とQ15【行財政改革への評価】のクロス集計

Q9「現在の支所体制を今後、どうすべきであると思うか」という問いへの回答とQ15「現在までの行財政改革の実施度合いをどう考えるか」という問いへの回答についてクロス集計を行ってみる。

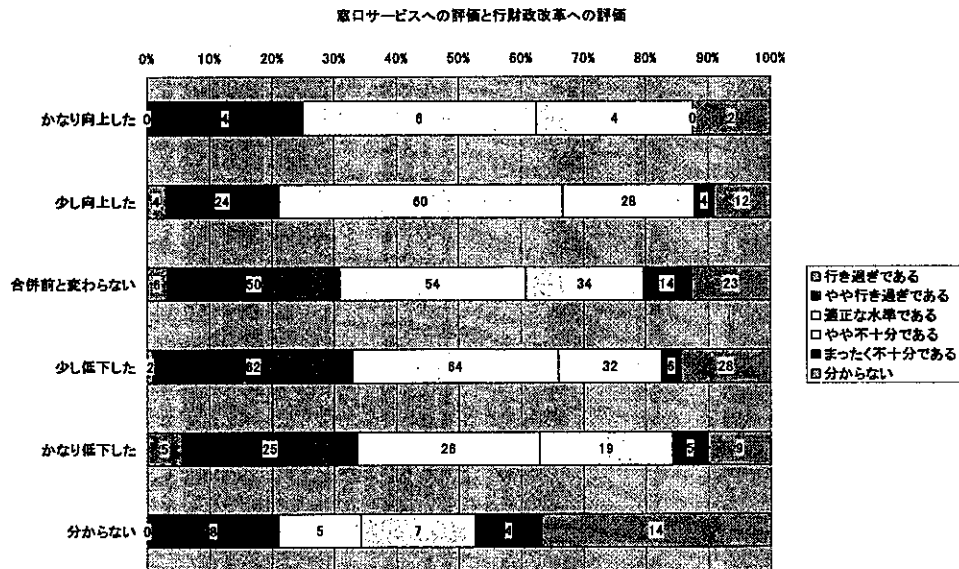


支所の統廃合は行財政改革と関連してくるため、この両回答の間にはある程度の相関関係が出てくると予想した。結果は、やはりそのような傾向を一部で認めるものであった。

支所体制を「より充実」「現状維持」「半分程度に廃止・統合」「大幅に廃止・統合」と厳しく見ていくほど、行財政改革を「やや行き過ぎ」であると批判的に見ている人の割合が減少している。換言すると、支所体制を残したいと思っている人ほど、行財政改革を「やや行き過ぎ」と評価していると言える。そして、支所体制は「大幅な廃止・統合が必要」と考えている人ほど、行財政改革を「やや不十分」と見ている人の割合が高く、「半分程度への廃止・統合が必要」と答えた人は、行財政改革を「適正な水準」と答える傾向があった。

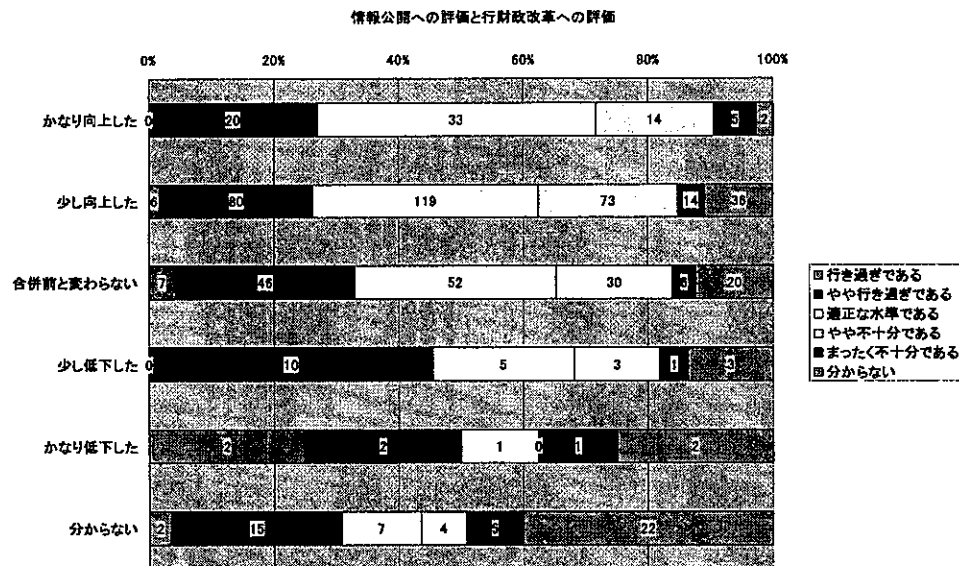
7. Q8の【各種行政サービスへの評価】とQ15の【行財政改革への評価】のクロス集計  
8つの分野の各行政サービスへの評価と行財政改革への評価についてクロス集計を行ってみる。

7-1. 窓口サービスへの評価と行財政改革への評価のクロス集計



この両質問への回答の間には、緩やかであるが傾向が読み取れる。つまり、窓口サービスに対して「向上」から「変わらない」「少し低下」「かなり低下」と評価が下がるほど、行財政改革は「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と回答する割合が増える。ただ、窓口サービスが「少し向上」と回答している人の中を見ると、行財政改革を「適正な水準」と答えている人が最も多く、行財政改革自体が必ずしも窓口サービスの向上と相容れないものとは捉えられていないことも分かる。

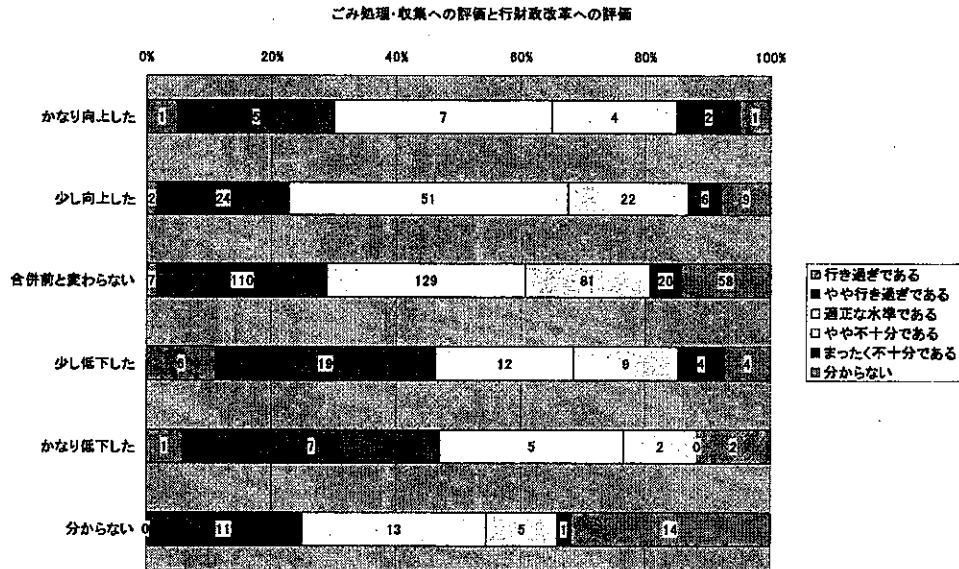
7-2. 情報公開への評価と行財政改革への評価のクロス集計



この両回答の間には、よりはっきりした傾向が読み取れる。情報公開を「向上」から「変わらない」「少し低下」「かなり低下」と評価を下げていくほど、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と捉えている人の割合が高まる。他方、サービスを「かなり向上」「少し向上」と答えた人の多くは、行財政改革を「適正な水準」「やや不十分」と捉えている。つまり、行財政改革がサービスの向上に必要と捉えている人と、逆にサービス低下を招いていると考えている人がいることが分かる。

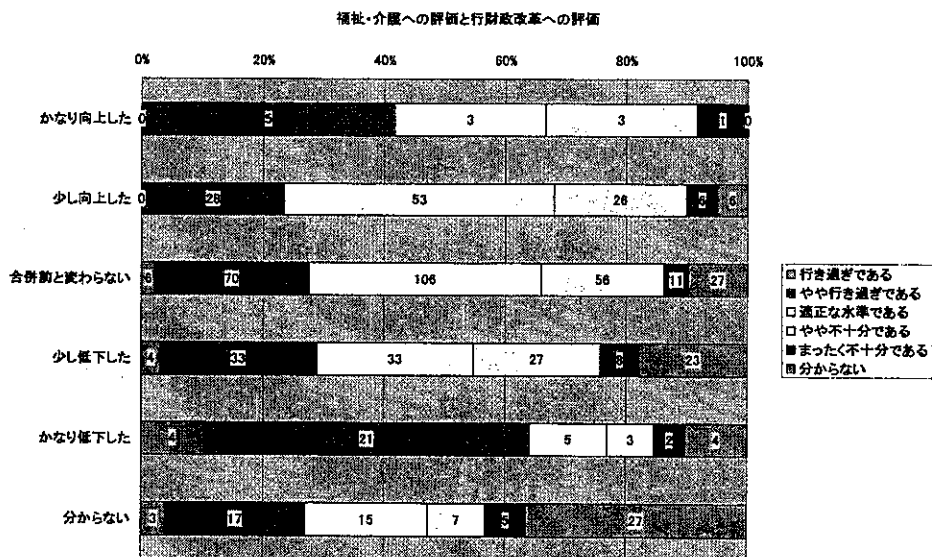


### 7-3. ごみ収集・処理への評価と行財政改革への評価のクロス集計



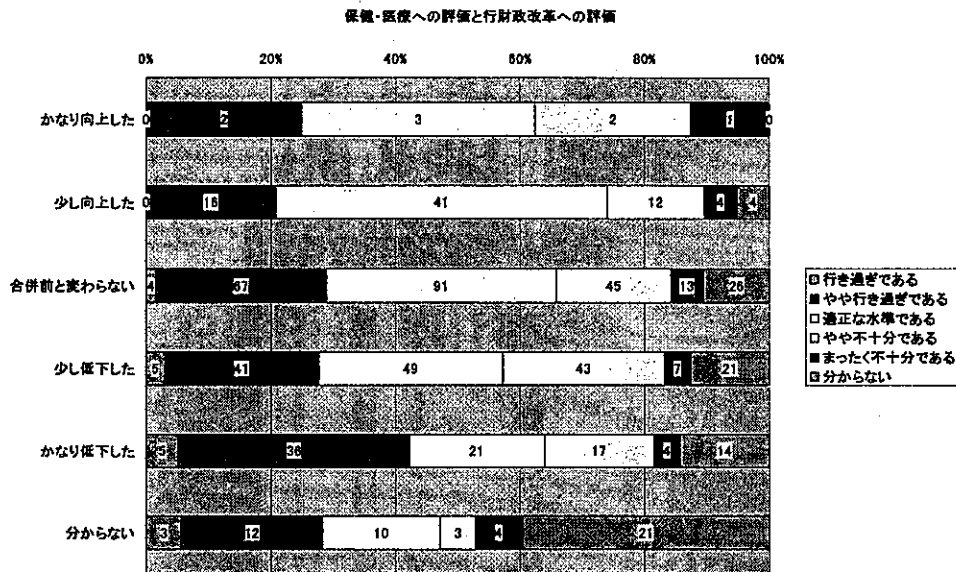
この両回答の間にも、前節で見たのと同様の傾向が観察される。ごみ収集・処理サービスを「かなり向上」「少し向上」「変わらない」と回答している3つのグループでは、行財政改革を「適正な水準」「やや不十分」と見ている人が全体の半数以上を占めている。しかし、このサービスを「少し低下」「かなり低下」と見ている人になると、行財政改革が「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と見る人の割合が一気に増える。

### 7-4. 福祉・介護への評価と行財政改革への評価のクロス集計



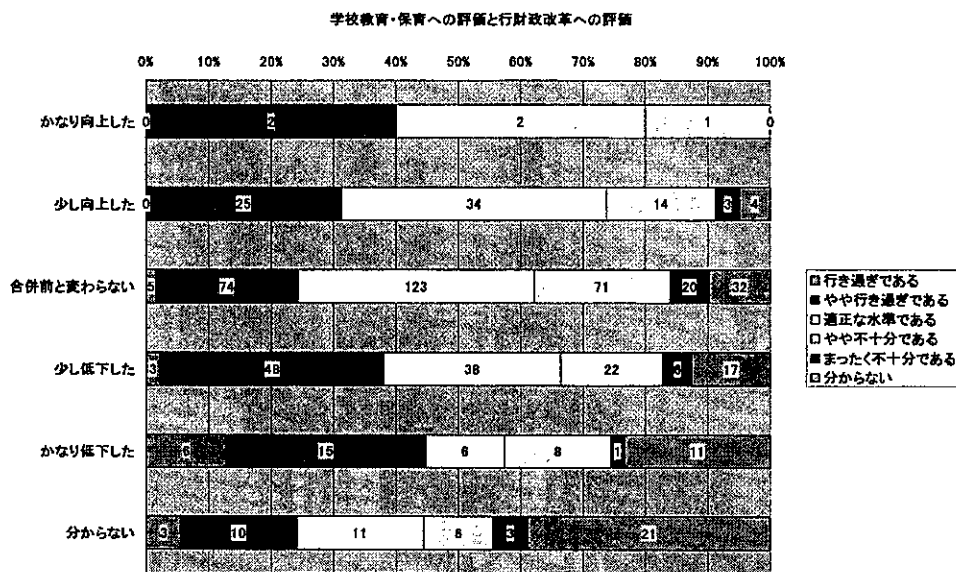
このクロス集計では、まず福祉・介護サービスを「かなり低下」と評価し、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と回答している人の割合が突出して高くなっている点が特筆される。福祉・介護サービスの充実と行財政改革が葛藤している状況が読み取れる。その一方で、このサービスを「かなり向上」と答えた人の中で、行財政改革を「やや行き過ぎ」と答えた人がその次に多かった点も興味深い。このサービスへの評価の両側で行財政改革への不満が高くなった点については、さらに検討すべきかもしれない。

### 7-5. 保健・医療への評価と行財政改革への評価のクロス集計



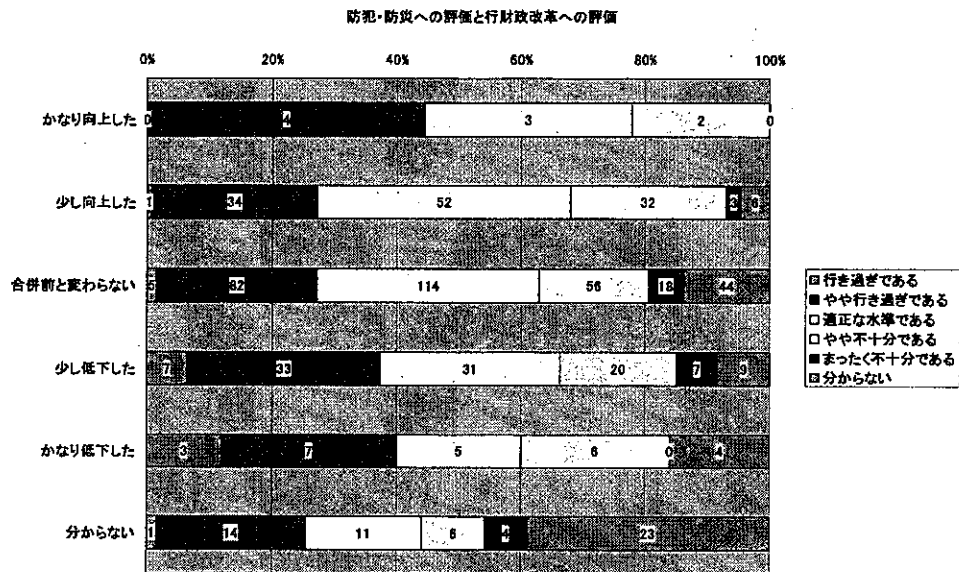
この両回答の間では、それほど強い相関関係は現れていない。これまでと同様の傾向が、一部で弱いながら現れている。保健・医療サービスを「かなり低下した」と回答したグループは、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と回答している割合が高い。

### 7-6. 学校教育・保育への評価と行財政改革への評価のクロス集計



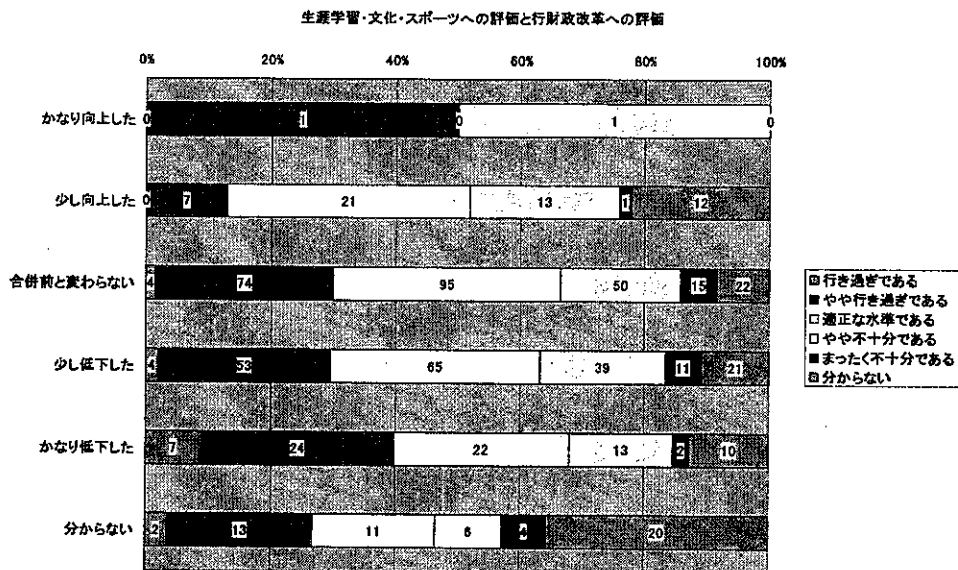
この両回答の間でも、一つには、これまでと同様に、学校教育・保育サービスを「変わらない」「少し低下」「かなり低下」と評価を下げるほど、そのグループでの行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と答える割合が高くなる。もう一つには、このサービスを「向上した」と捉えている人の間でも、行財政改革を「やや行き過ぎ」と見ている人の割合がやや高くなる。ここでもサービス評価の両側で行財政改革への不満が高いという現象が現れている。

### 7-7. 防犯・防災への評価と行財政改革への評価のクロス集計



この両回答の間では、全体として緩やかな相関関係が観察される。防犯・防災サービスに対する評価を「変わらない」「少し低下」「かなり低下」と下げていくほど、行財政改革を不満に思っている人の割合がやや増加する傾向にある。

### 7-8. 生涯学習・文化・スポーツへの評価と行財政改革への評価のクロス集計



この両回答の間では、より明確な傾向が現れている。生涯学習・文化・スポーツのサービスを「向上」から「変わらない」「少し低下」「かなり低下」と評価を下げるに伴い、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と回答する割合が増えている。

## 8. Q15【行財政改革への評価】の【個人属性】に対する回帰分析

Q15では「現在までの行財政改革の実施度合いについてどのように考えているか」を尋ねているが、その回答に{行き過ぎ=+2、やや行き過ぎ=+1、適正な水準=0、やや不十分=-1、まったく不十分=-2}を与え、個人属性に対して回帰させてみる。回帰の手法には、順序プロビット分析と順序ロジット分析とを用いる。回帰式を示せば以下ようになる。

$$\text{行財政改革への評価 } \{+2, +1, 0, -1, -2\} = f(\text{個人属性})$$

Q15	Ordered probit		Ordered logit	
gender(性別)	0.414*** (2.917)	0.429*** (3.041)	0.702*** (2.855)	0.733*** (3.014)
year(在職年数)	0.0767** (2.329)	0.0794** (2.449)	0.138** (2.396)	0.142** (2.522)
exp1(企画・総務経験ダミー)	-0.137 (-1.166)	-0.138 (-1.182)	-0.212 (-1.057)	-0.214 (-1.073)
exp2(財務・税務経験ダミー)	-0.181 (-1.551)	-0.178 (-1.531)	-0.329 (-1.642)	-0.319 (-1.601)
exp3(農林経験ダミー)	-0.138 (-1.095)	-0.140 (-1.112)	-0.241 (-1.108)	-0.248 (-1.148)
exp4(教育経験ダミー)	-0.0443 (-0.399)	-0.0458 (-0.413)	-0.114 (-0.600)	-0.116 (-0.612)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	0.0465 (0.365)	0.0417 (0.328)	0.0910 (0.399)	0.0808 (0.354)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	-0.175 (-1.476)	-0.185 (-1.563)	-0.291 (-1.442)	-0.310 (-1.545)
exp7(健康・医療経験ダミー)	-0.161 (-1.270)	-0.165 (-1.305)	-0.293 (-1.340)	-0.300 (-1.381)
exp8(産業・経済経験ダミー)	0.312** (2.368)	0.310** (2.350)	0.513** (2.237)	0.507** (2.213)
exp9(土木・建設経験ダミー)	0.330** (2.572)	0.331*** (2.591)	0.538** (2.441)	0.544** (2.484)
exp10(消防経験ダミー)	0.0520 (0.338)	0.0547 (0.357)	0.0956 (0.344)	0.110 (0.397)
exp11(水道経験ダミー)	-0.00560 (-0.0404)	0.00209 (0.0151)	0.0547 (0.227)	0.0722 (0.301)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	0.0994 (0.534)	0.112 (0.603)	0.120 (0.368)	0.136 (0.416)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	-0.0573 (-0.290)	-0.0476 (-0.241)	-0.0216 (-0.0635)	-0.0148 (-0.0434)
lpos_sannan(前職が地域 B)	0.0624 (0.334)	0.0855 (0.460)	0.187 (0.583)	0.209 (0.652)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	0.120 (0.643)	0.121 (0.648)	0.256 (0.806)	0.252 (0.793)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	-0.00661 (-0.0380)	0.00807 (0.0466)	0.0167 (0.0548)	0.0379 (0.125)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	-0.0161 (-0.0861)	0.0163 (0.0880)	0.0372 (0.115)	0.0714 (0.223)

lpos_etc(前職が他自治体)	0.0632 (0.293)	0.0928 (0.434)	0.217 (0.563)	0.246 (0.642)
jujitu_d(合併後に充実感が向上ダミー)	-0.0670 (-0.583)		-0.125 (-0.628)	
skillup_d(合併後4年感で能力UPダミー)	-0.0916 (-0.787)		-0.154 (-0.763)	
Cut Point1	-1.378*** (-6.121)	-1.274*** (-6.194)	-2.431*** (-5.971)	-2.251*** (-6.025)
Cut Point2	-0.329 (-1.529)	-0.223 (-1.150)	-0.475 (-1.282)	-0.294 (-0.883)
Cut Point3	0.792*** (3.633)	0.896*** (4.530)	1.368*** (3.626)	1.545*** (4.514)
Cut Point4	2.332*** (9.513)	2.429*** (10.58)	4.288*** (9.146)	4.455*** (10.03)
Pseudo R-squared	0.036	0.035	0.036	0.035
Observations	437	437	437	437

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

推定結果は、一つには女性であるほど、二つには在職年数が長いほど、行財政改革は「行き過ぎ」であると回答している関係が有意に現れている。過去の職務経験の中では、「産業・経済」「土木・建設」の経験者が、行財政改革を「行き過ぎ」と答える傾向が有意に現れている。行財政改革がなぜ「産業・経済」の経験者と相関をもっているかについては明確な関係を考えにくい。民間団体等への各種補助金が行財政改革の対象になっている可能性が考えられる。また「土木・建設」部門の経験者は、行財政改革が公共事業の抑制ということでマイナス評価を与えている可能性がある。

## 9. Q18【職務上の充実感】の【個人属性】に対する回帰分析

次に、Q18では、「現在、あなたの職務に対する充実感は、合併前と比べて変化しているか」と尋ねている。その回答に {かなり高まっている=+2、少し高まっている=+1、変わっていない=0、むしろやや下がっている=-1、かなり下がっている=-2} という点数を与え、個人属性に対して回帰させてみる。回帰の手法には、順序プロビット分析と順序ロジット分析とを用いる。回帰式を示せば以下ようになる。

$$\text{職務上の充実感 } \{+2, +1, 0, -1, -2\} = f(\text{個人属性})$$

Q18	Ordered Probit		Ordered Logit	
gender(性別)	0.100 (0.758)	-0.0687 (-0.530)	0.160 (0.695)	-0.148 (-0.667)
year(在職年数)	0.00790 (0.255)	-0.0243 (-0.797)	0.00118 (0.0218)	-0.0503 (-0.962)
exp1(企画・総務経験ダミー)	-0.0972 (-0.875)	-0.0764 (-0.695)	-0.158 (-0.826)	-0.113 (-0.599)
exp2(財務・税務経験ダミー)	0.156 (1.393)	0.116 (1.046)	0.268 (1.387)	0.190 (0.991)
exp3(農林経験ダミー)	-0.140 (-1.154)	-0.0849 (-0.707)	-0.263 (-1.252)	-0.177 (-0.852)

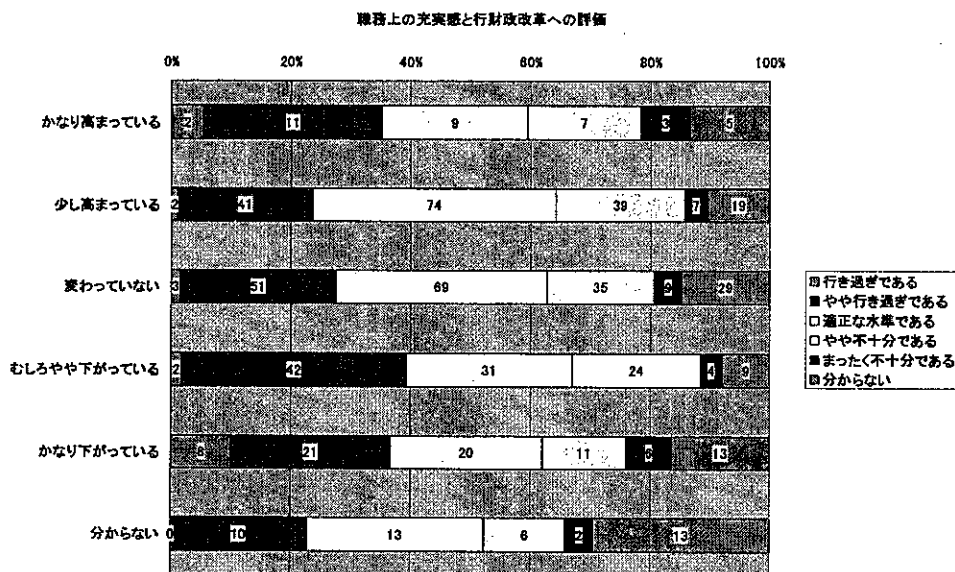
exp4(教育経験ダミー)	-0.0165 (-0.156)	0.0213 (0.203)	0.00161 (0.00871)	0.0147 (0.0807)
exp5(環境・衛生経験ダミー)	0.182 (1.504)	0.175 (1.462)	0.318 (1.522)	0.300 (1.461)
exp6(福祉・介護経験ダミー)	0.106 (0.947)	0.140 (1.257)	0.208 (1.075)	0.279 (1.463)
exp7(健康・医療経験ダミー)	-0.283** (-2.388)	-0.224* (-1.916)	-0.480** (-2.350)	-0.348* (-1.750)
exp8(産業・経済経験ダミー)	0.166 (1.285)	0.149 (1.168)	0.239 (1.067)	0.223 (0.997)
exp9(土木・建設経験ダミー)	-0.0665 (-0.536)	-0.0494 (-0.402)	-0.0872 (-0.409)	-0.0787 (-0.370)
exp10(消防経験ダミー)	-0.202 (-1.366)	-0.128 (-0.872)	-0.377 (-1.464)	-0.322 (-1.278)
exp11(水道経験ダミー)	-0.0834 (-0.626)	-0.128 (-0.974)	-0.179 (-0.782)	-0.235 (-1.020)
exp12(行政・議会事務経験ダミー)	0.0274 (0.160)	-0.0691 (-0.409)	0.0559 (0.194)	-0.133 (-0.465)
lpos_aogaki(前職が地域 A)	0.0556 (0.303)	-0.0130 (-0.0718)	0.113 (0.347)	0.00406 (0.0128)
lpos_sannan(前職が地域 B)	-0.130 (-0.742)	-0.220 (-1.265)	-0.255 (-0.844)	-0.326 (-1.100)
lpos_kaibara(前職が地域 C)	0.0303 (0.167)	0.0389 (0.217)	0.0878 (0.280)	0.0611 (0.199)
lpos_kasuga(前職が地域 D)	0.0270 (0.164)	-0.100 (-0.617)	0.0259 (0.0913)	-0.134 (-0.477)
lpos_ichijima(前職が地域 E)	-0.0472 (-0.265)	-0.244 (-1.396)	-0.0771 (-0.252)	-0.407 (-1.358)
lpos_etc(前職が他自治体)	0.240 (1.144)	-0.0341 (-0.166)	0.390 (1.092)	-0.0127 (-0.0364)
skillup_d(合併後4年間で能力 UP ダミー)	0.978*** (9.145)		1.614*** (8.643)	
Cut Point1	-0.779*** (-3.690)	-1.452*** (-7.448)	-1.422*** (-3.885)	-2.518*** (-7.408)
Cut Point2	-0.0171 (-0.0829)	-0.761*** (-4.062)	-0.0992 (-0.282)	-1.298*** (-4.067)
Cut Point3	0.899*** (4.317)	0.0692 (0.374)	1.419*** (3.970)	0.0514 (0.164)
Cut Point4	2.240*** (9.882)	1.285*** (6.546)	3.762*** (9.426)	2.225*** (6.418)
Pseudo R-squared	0.074	0.013	0.070	0.014
Observations	476	476	476	476

Note: \*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

ここでは、個人属性の変数は一つも有意に表れなかった。ただ一つ、Q19 で尋ねた「あなたの政策立案能力や職務遂行能力は、合併後の4年間で向上したと思いますか」という質問への回答を説明変数として扱ったものが有意に現れた。つまり、能力について{かなり向上=+2、少し向上=+1、変わっていない=0、むしろやや低下している=-1、かなり低下している=-2}という点数を与えて、説明変数に追加したところ、プラスで有意に現れた。Q18(職務に対する充実感)とQ19(能力の向上)の2つの質問への回答はそもそも相関(類似)している可能性があり、そのことがここに現れた可能性がある。

### 10. Q18【職務上の充実感】とQ15【行財政改革への評価】のクロス集計

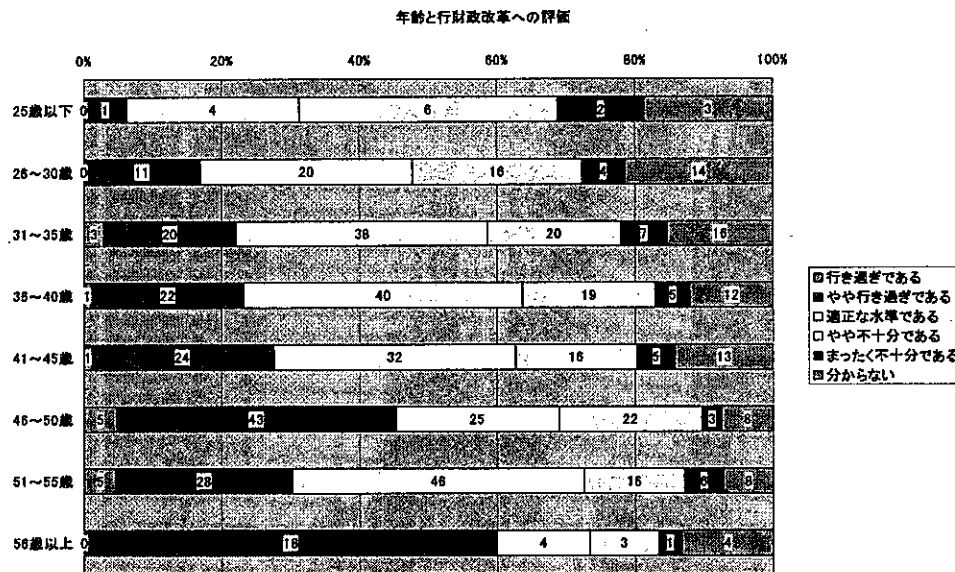
Q18の「あなたの政策立案能力や職務遂行能力は、合併後の4年間で向上したと思うか」という問いと、Q15の「現在までの行財政改革への実施度合いについてどのように考えるか」の間でクロス集計をとってみた。



この両質問への回答の間からは、それほど明確な傾向を読み取ることが出来なかった。ただし、やや弱いながら、これまでのクロス集計の結果と相通ずるような関係を指摘することが出来る。つまり、職務上の充実感が「やや下がっている」「かなり下がっている」と回答したグループで、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と回答している割合が高くなっている。行財政改革や合併に対して不満を覚えながら、職務の充実感を高めるといことは大変であろう。その意味では一定の傾向は現れたものの、予想したよりはむしろ弱いものであったと言える。

### 11. 【年齢】 および 【現在の役職】 と Q15 【行財政改革への評価】 のクロス集計

最後に、年齢と行財政改革への評価の間で、また現在の役職と行財政改革の間でクロス集計を行ってみる。



前に分析したが、年齢と合併への評価（肯定派・中間派・否定派）の間には相関関係が見出された。つまり、若い世代ほど、合併肯定的な人の割合が高く、年齢が上がるにつれて、合併に否定的な人の割合が高まっていた。ここでは行財政改革への評価との間でクロス集計をかけてみたが、同様の相関関係がほぼ同じような形で現れている。年齢が高くなるほど、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と見ている割合が増加する。唯一、51～55歳で、その行財政改革に対する不満派の割合が一旦低下する。これはこの年齢に管理職が多いからであると考えられる。



次に、現在の役職と行財政改革への評価についてクロス集計を行ってみた。これで見ると、行財政改革に対する不満派、つまり「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」の割合は、主査・主事を除いて、ほぼ4割前



後で変わらない。若い世代である主査・主事だけが、不満派2割弱と他と異なる低い割合を示している。そしてその分だけ、行財政改革を「適正」「やや不十分」と見る人の割合が増えている。

もう一つ行財政改革の評価を「分からない」とする回答の割合が、技能労務職と専門職（幼稚園教諭・保健師等）で高くなっている。これらの職種の人の中には、行財政改革の影響をつかみかねている人が多いのではないかと思われる。

## 12. まとめ

本稿で行ってきた分析の結果をまとめよう。それぞれの分析からは断片的なファクトファインディングを行うことしかできないが、それら結果を鳥瞰することで、職員の合併後の行政のあり方や職場環境の変化に対する思いがどのように関連しているか、相互の関係が見えてくるかもしれない。

### <1のまとめ>

- まず合併に対する評価と個人属性との関係を回帰分析（順序プロビット・順序ロジット分析）によって検証を試みたところ、合併に対する評価は、在職年数が長くなるほど、すなわち年齢が高くなるほど、総じて低下した。職務経験との関係で見ると、「財務・税務」「健康・医療」関連部署に就いたことのある人は評価が高く、「環境・衛生」「消防」「水道」関連部署にいた人の評価は低い傾向にあった。合併前の職場では、市島町にいた人の評価が高く、山南町にいた人の評価が低い傾向にあった。
- また、合併後の職務に充実感を覚えている人、政策立案能力などが向上したと思っている人ほど、合併に対する評価も高い傾向にあった。しかし、この分析だけでは、職務に充実感を覚えている人の合併への評価が高いのか、合併に満足している人が職務にも充実感を覚えているのか、という因果関係までは分からない。もちろん両方向の因果関係があるのかもしれない。

### <2のまとめ>

- 合併後の行政サービス8分野への評価と個人属性との関係について回帰分析（順序プロビット分析）による検証を試みた。推定結果の中で有意な関係として表れたところだけを取り出して整理すると、以下の表のようになる。行政サービスごとに、合併に対するプラス評価と相関がありそうな変数、マイナス評価と相関がありそうな変数に分けてみたところ、両者が微妙に分類されることが分かった。「消防」部署経験者、在職年数、前山南町役場のように、一つの行政サービスだけでなく、複数のサービス分野に登場する変数もいくつか観察された。
- 下記の表で、たとえば「在職年数」の長さは、合併に対する評価においてもマイナスの影響として現れていたが、行政サービスへの評価においても、8分野中、「ごみ収集・処理」「福祉・介護」「保健・医療」「防犯・防災」「生涯学習・文化・スポーツ」の5分野でマイナス評価として現れた。また「消防」部署経験者も合併への評価ではマイナス効果として現れていたが、「窓口サービス」「情報公開」「福祉・介護」「保健・医療」の4分野でマイナス評価を示していた。「環境・衛生」部署経験者も、「学校教育・保育」「防犯・防災」「生涯学習・文化・スポーツ」の3分野でマイナスの評価を示していた。
- とくにマイナス評価は、特定の変数が複数分野で有意に表れてきたが、これらがどのような因果関係を背後に抱いているのか、合併と行政サービスに対する評価とが、相互にどう関連付けられているのか、合併に対する不満、あるいは合併後の職場環境の変化に対する不満が、その行政サービスへの評価にたまたま現れてきたのか、それともやはりその行政サービス自体の評価として有意に現

れてきたのか、そこまで読み取ることは難しい。「消防」と「環境・衛生」という職務には、一般行政職よりも技能職・現業職の人が多く含まれていると思われるが、職務内容の違いがこれらのことに関係しているのだろうか。そうだとすれば、「消防」と「環境・衛生」経験者の変数がマイナス評価として現れた行政サービス分野が共通していなかった点も腑に落ちない。いろいろと疑問はつきないが、これらの疑問解消には、さらに現場インタビューなどを含めた調査・検討が必要となる。

	窓口サービス	情報公開	ごみ収集・処理	福祉・介護	保健・医療	学校教育・保育	防犯・防災	生涯学習・文化・スポーツ
プラス効果	「産業・経済」経験者	「産業・経済」経験者	市島町	「企画・総務」「教育」経験者	市島町	「財務・税務」「福祉・介護」経験者	「健康・医療」経験者 ／春日町	
マイナス効果	「消防」経験者／山南町 ／市島町	「消防」経験者／柏原町 ／市島町	在職年数	女性／在職年数／「消防」経験者 ／山南町	在職年数／「消防」経験者	女性／「環境・衛生」「土木・建設」経験者 ／山南町	在職年数／「環境・衛生」	在職年数／「教育」「環境・衛生」「土木・建設」経験者

### <3のまとめ>

- 行政サービス8分野への評価にそれぞれ点数 {+2~2} を与え、分野間で相関係数をとり、さらに相関係数の高かったもの、低かったものを取り出して、評価の分布を調べてみた。相関係数は0.10から0.55の間に収まっており、多くは0.2~0.3の間であった。その中で、比較的相関係数の高かったもの、つまり0.4以上の組み合わせが4つ、0.2以下の低かった組み合わせが3つあった。それらの実際の評価の分布を検討してみた。
- 相関係数の高かったケースは、保健・医療⇔福祉・介護、学校教育・保育⇔福祉・介護、学校教育・保育⇔保健・医療、学校教育・保育⇔防犯・防災であった。「防犯・防災」以外は3分野の相互関係で、これらの分野への評価はかなり似通っているものと推察される。「保健・医療」「介護・福祉」という関連・隣接するサービスであり、「学校教育・保育」もまた近接する分野と言え、そのことで似通った評価がなされた可能性が考えられる。その点では、「防犯・防災」も身近な生活環境の問題という点で近接していると言えるかもしれない。
- 上記の4つのサービス分野への評価が比較的似ていたということは、実際に評価の分布を見ると、左上から右下への対角線上に60%以上の人が位置していたことからであると分かる。“評価が高い”ということではなく、評価は高いにしても低いにしても、2つの分野に同様の評価をしている人が多かったということである。実際に最も多いのは、2つのサービスに「変わらない」-「変わらない」という評価をしている人であった。合併によるこれらのサービス分野への影響を判断するのは難しいことを、反映しているのかもしれない。
- 相関係数の低かった3つのケースは、生涯学習・文化・スポーツ⇔情報公開、保健・医療⇔情報公開、生涯学習・文化・スポーツ⇔ごみ収集・処理であった。「情報公開」は8つの分野で突出して高い評価を、「生涯学習・文化・スポーツ」は他の7つの分野の中で相対的に最も低い評価を受けていた。やはりその両者の組み合わせの相関係数が最低の値であった。またそれ以外の2つのケースも、

このどちらかのサービスとの組み合わせであった。実際の分布を見ると、左上から右下への対角線上からずれている人がかなりいることで相関係数が低くなったことが分かる。それぞれの分野について、職員はそれなりに考えて評価を与えた証左と言えるかもしれない。

#### <4のまとめ>

- 合併への評価と同様に、回答の評価が分かれた質問に、「支所体制を今後どうすべきか」という問いがあった。また行政サービスの中でも「窓口サービス」への評価は、「保健・医療」と並んで、合併後にサービスが低下していると見ている人が多かった。窓口サービスに関連してくるのが支所体制でもある。自由記述においても、他の合併自治体へのヒアリング調査からも、合併後の多くの自治体が支所のあり方で悩んでいる様子が感じられた。
- 「支所体制を今後どうすべきか」という回答を点数化 {+1~-2} し、それを個人属性に対して回帰させたところ、性別、在職年数が有意に現れた。女性、そして在職年数が長い（すなわち年齢が高い）人ほど、「支所をより充実していくべき」「維持していくべき」と回答していた。一部の行政サービスへの評価においても、女性と在職年数がマイナス効果として現れていた点が想起される。

#### <5のまとめ>

- 行政サービス8分野への評価と支所体制のあり方に関する回答についてクロス集計を行ったところ、8つのクロス集計に共通する点が観察された。各行政サービスへの評価において、合併後「かなり低下した」と回答したグループにおいて、支所を「より充実していくべき」と回答している割合が突出して多かった。
- 行政サービスを「少し低下した」と評価している人たちの支所に対する見方は、行政サービスを「変わらない」「少し向上」「かなり向上」と評価している人たちとむしろ近かった。「かなり低下した」と見ている人たちだけが、支所に対して他の人たちと異なる思いを抱いているように見える。その違いはクロス集計のグラフからもはっきりと読み取れ、判別分析などを行えば、「かなり低下」と「少し低下」の間に有意な線を引くことができるのではないと思われる。
- 行政サービスを「かなり低下した」と感じている職員は、その原因が支所体制と関連していると考えている人が多いのかもしれない。あるいは逆に支所を重要だと思っている人が、行政サービスへの評価を低めに表明しているのかもしれない。

#### <6のまとめ>

- 支所体制の今後のあり方は行財政改革と関係してくる問題でもあることから、その両質問への回答にクロス集計を行った。両者はやはりトレードオフの関係にあり、支所を「より充実」「現状を維持」と表明している人ほど、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と見ている傾向があった。そして、支所の「廃止・統合が必要」と思っている人ほど、行財政改革は「やや不十分」と回答していた。まさに支所体制を今後どうしていくべきかという問題は、合併自治体が直面する重要かつ意見の相違する悩ましい課題であることが分かる。

#### <7のまとめ>

- 行政サービスへの評価と行財政改革への評価についてクロス集計を行ったところ、両者の間にも多くの部分で相関関係が観察された。行政サービス8分野すべてで、サービスが「低下した」と捉えている人ほど、行財政改革を「行き過ぎ」「やや行き過ぎ」と捉えている割合が高まった。サービスが「低下した」と考えている人にとっては、その原因が行財政改革にあると認識され、逆にサービスが「向上した」と捉えている人には、行財政改革は「適正」あるいは「やや不十分」と認識されていることが分かる。

- これまでのクロス集計の結果から、合併への評価、行政サービスへの評価、その中でも支所体制に対する考え方、そして行財政改革への評価が、相互に関連を持っていることが窺われる。

#### <8のまとめ>

- 行財政改革への評価を点数化し、これまでの分析と同様に個人属性に対して回帰分析を行ってみた。ここでも性別と在職年数が有意となり、他に「産業・経済」「土木・建設」部署経験者のダミーが有意であった。すなわち、女性であり、また在職年数が長い人ほど、行財政改革を「行き過ぎ」と捉える傾向があった。先の支所体制を「充実」あるいは「維持すべき」と考えている関係と、同様の因果関係を捉えているとすれば、やはり支所をどうするかが行財政改革の対象として認識されている状況が窺われる。

#### <9のまとめ>

- アンケートでは、合併後の職務に対する充実感を聞いていたが、その回答を点数化し、個人属性に対して回帰分析を同様に行った。この分析では、唯一、「健康・医療」部署経験者のダミーが、「充実感が下がっている」方向に有意に現れただけであった。これは行政サービスへの評価でも、健康・医療分野ではサービスが「低下した」と評価した人の割合が相対的に高かったことと関係しているかもしれない。しかし、先の行政サービスへの評価を個人属性に回帰させた分析の中で、健康・医療サービスへの評価に対して健康・医療部署経験者のダミーは特段有意には効いてこなかった。両者の関係までは推察することができなかった。
- 合併後に能力UPしたと思うかどうかをダミー変数として処理した変数がプラスで有意に現れた。職務の充実感と能力に対する自己評価とが、ある程度予想されたこととは言え、相関を持っている可能性が現れた。職員の職場環境に対するケア、能力向上のための機会ということが、合併後の行政サービスの向上にとって重要な課題であることが示唆されているのかもしれない。

#### <10のまとめ>

- 職務上の充実感を尋ねた質問と行財政改革への評価を尋ねた質問のクロス集計をかけてみた。両者は弱いながらも相関関係を示していた。すなわち、これまでの分析からある程度予想されるように、職務上の充実感が「(かなり) (やや) 下がっている」と回答した人ほど、行財政改革は「(やや) 行き過ぎ」であると回答する割合が高かった。

#### <11のまとめ>

- 最後に、行財政改革への評価を年齢と役職について、それぞれクロス集計を行ってみた。回帰分析でも年齢変数が常に有意に現れていたが、ここでも年齢と行財政改革への評価の間に明確な相関関係が見出された。すなわち、年齢が上がるほど、行財政改革を「(やや) 行き過ぎ」と見る人の割合が高まっていた。
- 役職とのクロス集計では、年齢的な要因と職種の変数の両方が現れたようである。一つに、主査・主事のクラスだけが、行財政改革を肯定的に見る割合が突出して高いことであった。これは年齢の若い人たちの先の評価と関連するものであろう。二つ目に、事務職と技能職・専門職の間に評価の違いが現れていた。技能職・専門職の間では「(やや) 行き過ぎ」の割合が管理職や監督職と同レベルに高いと同時に、「分からない」の割合が突出して高いものであった。先の分析で「水道」や「消防」といった部署の経験者が行政サービスに対してマイナス評価を与えているケースがあったが、そうした点に関連している可能性もある。

#### <全体的に>

これまでのワーキングペーパー3本を通して、合併アンケート調査の結果集計、そしていくつかの鍵

となる質問について、クロス集計や回帰分析を用いた相互関係の検証を行ってきた。そこから、合併自体の職員が、合併後のまちづくりや行政のあり方、職場環境の変化に対して、どのような思いを抱いているかを推察することを意図してきた。分析・検討を通じて、いくつか興味深いファクトファイディングが得られたと同時に、合併自治体が抱えている課題や職員の悩みの断片を浮き出たさせることができたと思われる。

第1に、合併に対する職員の評価は大きく三様に、すなわち肯定派、中間派、否定派に分かれていた。合併をある意味で推進してきた行政、その中の職員自身が、合併に対する評価で一様ではないこと、そして三者三様の思いの背後に、さらに複雑な思いがあることを見出すことが出来た。

すべての質問への回答を比較検討していく中で、(1)合併に対する評価、(2)各種行政サービスへの評価、(3)行財政改革に対する評価、(4)その中でもとくに支所体制を今後どうしていくべきかという考え方、これらの質問への回答には類似の傾向、相互関連があることが示唆された。それも、単に否定的な立場だから、すべてに否定的ということではなく、それぞれの行政サービスなどにおいて微妙な評価や関連の違いもあることが推察された。それぞれのサービスについての固有の課題や問題には、今後個別の検討が求められるが、その論点は見えてきたように思われる。

第2に、(1)合併に対する評価、(2)各種行政サービスに対する評価、(3)行財政改革に対する評価、(4)支所体制に対する見方を、個人属性(年齢や職務経験等)に対して回帰分析を行ったところ、ここにも類似の傾向とクロス集計から予想された特徴が表れてきた。下記の表に、順序プロビット分析等において有意に表れた変数を、プラス・マイナスの符号で整理してみた。

被説明変数	プラスの効果	マイナスの効果
合併に対する評価	財務・税務経験、保健・医療、前市島町	在職年数、環境・衛生、消防、水道、前山南町
窓口サービスに対する評価	産業・経済、	前山南町、前市島町
情報公開	企画・総務、財務・税務、産業・経済	消防、前柏原
ゴミ収集・処理	前市島町、	在職年数
福祉・介護	企画・総務、教育	性別、在職年数、消防、前山南町
保健・医療	前市島町	在職年数、消防
学校教育・保育	財務・税務、福祉・介護	性別、環境・衛生、土木・建設、前山南町
防犯・防災	保健・医療、前春日町	在職年数、環境・衛生
生涯学習・文化・スポーツ		在職年数、教育、環境・衛生、土木・建設
行財政改革に対する評価 (プラスは改革が行き過ぎ)	性別、在職年数、産業・経済、土木・建設	
支所体制に対する見方 (プラスは支所を残すべき)	性別、在職年数、前山南町	

この表を見ると、合併に対する評価、行政サービスの評価、行財政改革に対する評価、支所体制に対する見方は、在職年数とマイナスの相関を持っていることが分かる。すなわち、年齢が高くなるほど、これら被説明変数に対する評価・考え方は、否定的になる傾向があった。また同様に、性別が女性であ

るほど、一部の行政サービス、行財政改革、そして支所体制の改革に対して、マイナスあるいは消極的な回答をしていることが示された。それ以外にも、過去の職務経験や旧役場の違いで、行政サービスや行財政改革への評価に有意な差が見出された。それ自体が興味深い結果であったが、その背後にある根拠までとなると、さらに検討をしなければならない。

#### <今後の検討課題>

合併した自治体は後に戻ることができない。合併したからには、前進していく宿命を負わされている。したがって、行政サービスを何としても改善していく手段を検討していかなければならない。さもなければ、何のための合併だったのかということになってしまう。

その点では、まちづくりの先頭に立つ職員自身が悩み、不満を抱えているとすれば、それは大きな問題である。アンケート調査からは、行政サービスを向上させていくという点で、行財政改革を消極的に捉えている人が多いことが分かったが、同時に、行政サービスの向上のために行財政改革を積極的に捉えている人もいることが分かった。行財政改革は行政サービスを低下させるのか、否、それは逆に向上させるために必要なのか、この点についての分析もさることながら、職員自身の議論も必要ではないか。

行政サービスにはそれぞれの領域で課題がありそうであるが、とりわけ支所体制を今後どうしていくべきか、行財政改革の中にそれをどう位置づけていくのか、早急に検討が必要である。この問題には住民との協議も重要である。

いずれにせよ、いくつかの質問に対する否定的な回答や消極的な回答が、合併とは無関係の職務上の不満なのか、合併を契機とした不満なのか、問題の根源を識別し、その対応策を検討していくこと、同時に、職務上の満足度（充実感）を高める取り組みを検討していくことも、今回の調査対象自治体のみならず、全国の合併自治体に求められよう。

今後は、この地域や自治体へのヒアリング調査などを再度行い、この合併自治体に固有の問題と全国の中山間地域の合併自治体に共通する普遍的な現象や問題とを識別し、この合併自治体への政策提言と共に、全国の合併自治体の今後の課題と政策的な対応についての政策提言を平行して検討していきたい。

WORKING PAPERS SERIES 発行一覧

番号	発行日付	タイトル	著者名	所属
No. 1	1997年3月	On Some Integrated Assessment Modeling Debates	天野 明弘	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 2	1997年7月	いじめの経済分析 — 傍観者達の分析(2) —	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			森 徹	名古屋市立大学経済学部 教授
			岡村 誠	神戸市立外国語大学 助教授
			曾山 典子	奈良女子大学理学研究科 (情報科学専攻)修了
No. 3	1997年8月	Comparison of Marginal Propensity to Consume between Legal and Tax-Evaded Income — The Japanese Case	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			林 宏昭	帝塚山大学経済学部 助教授
No. 4	1997年9月	networkを使ったgameシステム — いじめの経済分析(3) —	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			森 徹	名古屋市立大学経済学部 教授
			岡村 誠	神戸市立外国語大学 助教授
			曾山 典子	奈良女子大学理学研究科 (情報科学専攻)修了
No. 5	1997年12月	WWWを使ったgameシステム	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			森 徹	名古屋市立大学経済学部 教授
			岡村 誠	神戸市立外国語大学 助教授
			曾山 典子	奈良女子大学理学研究科 (情報科学専攻)修了
No. 6	1997年12月	Choosing between the Median - Voter and Niskanen Models : An Empirical Approach	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
			小澤 太郎	慶応義塾大学総合政策学部 助教授
No. 7	1998年6月	公共投資の政治-経済分析 ~道路投資の地域間配分の実証分析~	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 8	1998年6月	COP 3後の社会経済システム変革のあり方について	天野 明弘	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 9	1998年7月	Deficits and Budgeters' Revenue Forecasts	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			柴田 弘文	立命館大学政策科学部 教授
No. 10	1998年8月	Two Modes of Sophisticated Voting and the Formation of a Coalition Government under Japan's New Electoral Law	鈴木 基史	関西学院大学総合政策学部 教授
			品田 裕	神戸大学法学部 助教授
			建林 正彦	関西大学法学部 助教授
No. 11	1999年3月	中位投票者モデルvs. 平均投票者モデル — 県別単独事業費を用いた推定 —	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
			奥井 克美	追手門学院大学経済学部 専任講師

番号	発行日付	タイトル	著者名	所属
No. 12	1999年7月	京都議定書における伸縮的手法と 国内排出削減制度の構築 Flexibility Mechanisms in the Kyoto Protocol and the Design of Domestic Policies to Reduce Greenhouse Gas Emissions	天野 明弘	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 13	1999年10月	財政赤字と省益最大化： 税収予測からの検証	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			柴田 弘文	立命館大学政策科学部 教授
No. 14	1999年10月	いじめの経済分析 －傍観者達のモデルと実験的検証－	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			森 徹	名古屋市立大学経済学部 教授
			岡村 誠	神戸市立外国語大学 教授
			曾山 典子	天理大学教養部 常勤講師
No. 15	1999年11月	道路投資配分の政治的要因	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 16	1999年11月	地方交付税の算定構造・配分構造に関 する分析	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 17	2000年3月	An Economic Analysis of Non- Good Samaritan Behavior: Theory and Experiment	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			森 徹	名古屋市立大学経済学部 教授
			岡村 誠	神戸市立外国語大学 教授
			曾山 典子	天理大学教養部 常勤講師
No. 18	2000年3月	二酸化炭素国内排出削減メカニズムの 確立に向けて Green Climate Program: A Proposal Toward Establishing Domestic Permit-Trading System for Carbon Dioxide Emission Abatement	天野 明弘	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 19	2000年5月	ニュー・ミレニアム・ラウンド交渉の 方向性と展望 (TRIPS、EC及びTBTについて)	中野 幸紀	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 20	2000年9月	貿易政策と環境政策： 相互支援の可能性 Trade and Environmental Policies: Can They Be Mutually Supportive?	天野 明弘	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 21	2001年2月	持続可能な発展の条件 Conditions for Sustainable Development	天野 明弘	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 22	2001年5月	仕事の効用の決定要因 ～メンタル ヘルスへの影響も考慮して～	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			Corianne Boyles	帝塚山大学経済学部 助教授
No. 23	2001年7月	Budgetary Transfer to Local Governments: Equity, Efficiency and Political Influence	柴田 愛子	関西学院大学総合政策学部 教授
			坂井 優	関西学院大学大学院総合政策研究科 博士課程後期課程



番号	発行日付	タイトル	著者名	所属
No. 24	2002年3月	老人福祉施設職員の職務意識に関する研究(1)：特別養護老人ホーム職員の持つ資格と職務意識との関係	渡部 律子	関西学院大学総合政策学部 教授
			澤田 有希子	関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程後期課程
			設楽 英美	関西学院大学総合政策学部卒業
			月田 奈美	関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期課程
No. 25	2002年5月	地方道路譲与税と公共事業 －道路特定財源の道路投資に与える効果について－	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 26	2002年11月	英国気候変動政策の環境効果と費用負担 UK Climate Change Program: Enhancing Environmental Effectiveness and Reducing Cost Burdens	天野 明弘	関西学院大学大学院総合政策研究科客員教授、財団法人地球環境戦略研究機関関西研究センター所長
			田中 彰一	関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程後期課程
No. 27	2002年12月	Stochastic Racing in Network Markets	Hans-Werner Gottinger	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 28	2003年3月	Dynamic Portfolio Strategies with Transaction Costs	Hans-Werner Gottinger	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 29	2003年12月	高齢者福祉施設職員の職務意識 －公的介護保険の影響、ソーシャルサポート、職務満足、ストレスを中心にして－	渡部 律子	関西学院大学総合政策学部 教授
			澤田 有希子	関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程後期課程
			月田 奈美	関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期課程修了生
No. 30	2005年3月	地方財政の逼迫と地方債拡大の構図	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
			松浦 元哉	三重県津企画調査部主査
No. 31	2005年6月	平成の大合併は財政立て直しになるのか －特例法適用第一号の篠山市を教訓に、早急に長期財政計画を策定せよ－	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
			田中 悦造	篠山市議会議員
No. 32	2005年6月	Does Your Optimizer Make "Real" Optimal Media Plan? A New Formulation of Media Optimization Problem with HOPE	井垣 伸子	関西学院大学総合政策学部 教授
			伊佐田百合子	帝塚山大学 助教授
			仲川 勇二	関西大学 教授
			山川 茂孝	株式会社 電通 関西支社 シニア・メディア・リサーチャー
No. 33	2006年2月	介護支援専門員の困難事例分析： ソーシャルワークの機能に焦点をあてて	渡部 律子	関西学院大学総合政策学部 教授
			料所 奈津子	バージニアコモンウェルス大学大学院博士課程
No. 34	2006年3月	紙面別接触状況を考慮した 新聞広告最適出稿計画問題	井垣 伸子	関西学院大学総合政策学部 教授
			伊佐田百合子	帝塚山大学 助教授
			仲川 勇二	関西大学 教授
			山川 茂孝	株式会社 電通

番号	発行日付	タイトル	著者名	所属
No. 35	2007年5月	政策決定をめぐる費用便益分析の理論と現実	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
No. 36	2007年11月	インデックスファンド問題の対話型解法	井垣 伸子	関西学院大学総合政策学部 教授
			伊佐田百合子	関西学院大学総合政策学部 准教授
			仲川 勇二	関西大学 教授
No. 37	2008年1月	財政赤字・政府債務と長期金利 -Published Forecastsを利用した実証分析-	亀田 啓悟	関西学院大学総合政策学部 准教授
No. 38	2008年2月	わが国の民間消費に対する 非ケインズ効果の実証分析	亀田 啓悟	関西学院大学総合政策学部 准教授
No. 39	2008年2月	Budget Deficits, Government Debt and Interest Rates in Japan :An Analysis using Published Budgetary Forecasts	亀田 啓悟	関西学院大学総合政策学部 准教授
No. 40	2008年4月	財政赤字と長期金利に関するイベント スタディー	亀田 啓悟	関西学院大学総合政策学部 准教授
			松下 泰章	関西学院大学総合政策学部
No. 41	2008年6月	業種別商業集積に基づく都心商業地域の 回遊行動モデル A Pedestrian Model for Urban Shopping Area Based on Categorized Shop Data	山田 孝子	関西学院大学総合政策学部 教授
			加藤 憲一	東京工業大学大学院情報理工学 研究科 助教
No. 42	2009年3月	非ケインズ効果はGDPにも作用するのか？ -閾値多変量自己相関モデル(Threshold VAR)を用いた分析-	亀田 啓悟	関西学院大学総合政策学部 准教授
No. 43	2009年3月	合併自治体の職員意識に見る 市町村合併の検証(その1) -兵庫県X市の職員アンケート調査から-	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
			湯之上 英雄	大阪大学大学院国際公共政策研究科 助教
			吉見 安弘	関西学院大学大学院総合政策研究科 博士課程前期課程修了生
No. 44	2009年11月	財政支出の需要創出効果 -閾値多変量自己相関モデル(Threshold VAR)を用いた分析-	亀田 啓悟	関西学院大学総合政策学部 准教授
No. 45	2010年3月	合併自治体の職員意識に見る 市町村合併の検証(その2) -兵庫県X市の職員アンケート調査、 クロス集計を中心に-	長峯 純一	関西学院大学総合政策学部 教授
			湯之上 英雄	千葉商科大学サービス創造学部 専任講師
			吉見 安弘	関西学院大学大学院総合政策研究科 博士課程前期課程修了生